

国際セーフコミュニティ認証センター
セーフコミュニティ再認証申請書

【補足資料 1 ～ 1 1】

セーフコミュニティ国際認証都市 みのわ



長野県箕輪町

Contents (目次)

Section A1 P 3~5

Supplement 1 Overview of Minowa Town
(補足資料1 箕輪町の概要)

Section A2, B4, 7, 8, 12 . . . P 6~8

Supplement 2 The Fifth Series of the Promotion Programs and Safety Ordinances, etc
(補足資料2 第5次振興計画及び安全条例等)

Section A3, B11, C1~5 . . . P 9~18

Supplement 3 Safe Community Promotion System
(補足資料3 セーフコミュニティ推進体制)

Section A4 P 19~35

Supplement 4 Overview of External Injury Risks
(補足資料4 外傷リスクの概要)

Section B1 P 36~41

Supplement 5 Overview of the Demographic Structure of the Community
(補足資料5 人口動態構造)

Section B10, G1~3, H2 . . . P 42~45

Supplement 6 Scheme to Evaluate Programs and the Programs to Document the Frequency
and the Causes of Injuries
(補足資料6 プログラムを評価する仕組み及び外傷の頻度や原因などを記録)

Section B11 P 46~49

Supplement 7 Comparison from the Economic View Point
(補足資料7 経済面からの比較)

Section D1, 2 P 50~64

Supplement 8 Efforts for Security and Safety
(補足資料8 安全・安心に関わる取組み)

Section E1, 2 P 65~76

Supplement 9 High Risk Groups and Environments
(補足資料9 ハイリスクグループ)

Section F1, H3 P 77~84

Supplement 10 Programs Implemented by Task Force Teams
(補足資料10 対策委員会が実施するプログラム)

Section I1, 4 P 85~88

Supplement 11 Participation in National & International Safe Community Networks
(補足資料11 国内外のセーフコミュニティネットワークへの参加)

Supplement 1

(補足資料 1)

Overview of Minowa Town

(箕輪町の概要)



[1] 箕輪町の位置及び特徴

■ 位置



箕輪町は、日本の中央にある長野県のほぼ中央部に位置し、東西を山脈に囲まれるなど、緑豊かな自然に恵まれています。

町の中部平坦地を北から南へ天竜川が貫流し、典型的な河岸段丘地勢です。

古来、稲作・畑作・果樹などの農業中心で発展してきたこの地域は、1955年に3町村が合併し、人口18,000人の箕輪町として出発しました。その後、高速交通網の整備に伴う製造業の進出・成長、インフラ整備、宅地整備等により、現在では人口約25,000人、約9,000世帯と、県下最大規模の町にまで発展した田園工業都市です。



[2] 箕輪町の概要

■ 人口 25,057人(9,365世帯)【2016年10月1日現在】

■ 面積 85.91km²

■ 気象 2014年の平均気温 11.2℃
最高気温 35.1℃
最低気温 -9.9℃

■ 教育機関

- 保育園(町立) 8園
- 小学校(町立) 5校
- 中学校(町立) 1校
- 高等学校(県立) 1校

【2016年10月1日現在】

■ 医療機関

施設 19箇所(病院1箇所、一般診療所9箇所、歯科診療所9箇所)

【2016年11月1日現在】

■ 町章



■ 町の花：いわやまつつじ



■ 町の木：けやき



■ 交流都市等

東京都豊島区

静岡県浜松市西区庄内地区

■ マスコットキャラクター



箕輪町マスコットキャラクター
「もみぢちゃん」

Supplement 2

(補足資料 2)

The Fifth Series of the Promotion Program
and Safety Ordinances, etc
(第5次振興計画及び安全条例等)



[1] 第5次振興計画の位置付け

■ 第5次振興計画とは

当町におけるセーフコミュニティの取組みは、まちづくりを進める上での重要な柱のひとつとなるもので、振興計画で明確に示すことにより、将来に渡るSCへの取組みを担保しています。

第5次振興計画とは、地方自治体が長期的な展望の下で、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるための指針となるもので、各分野における個別計画の上位に位置する「最上位計画」です。

あらゆる分野を網羅する目標や施策に言及した「総合的な計画」であり、国・県が地域の計画として尊重し、行政のみならず地域の住民や企業・団体などの役割にも言及しています。

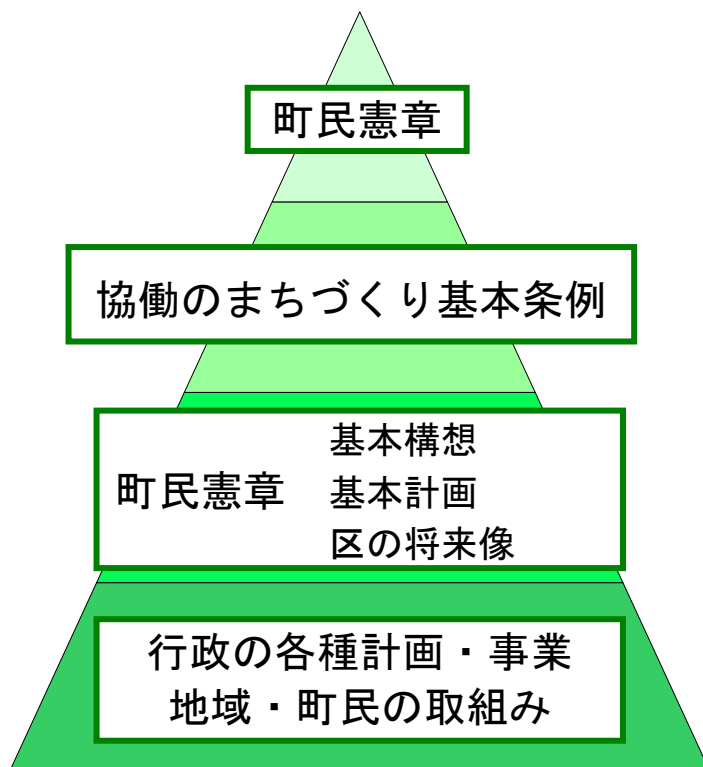
箕輪町では、2014年施行の『箕輪町協働のまちづくり基本条例』により、町民との協働の在り方を明らかにしました。この条例の規程に従い、まちづくりの中長期的な総合計画として、第5次振興計画（計画期間2016～2025）を策定しました。

■ 第5次振興計画における箕輪町の将来像

箕輪町では、2010年頃から自然減を中心とした人口減少・少子高齢化が顕著となり、時代の転換期を迎えています。

今後は、生産年齢人口の減少による税収減や、担い手不足による地域コミュニティの弱体化等様々な問題が懸念されます。

箕輪町第5次振興計画では、町民が望む『箕輪町の将来像』の実現に向けて、町民の理解、協力のもと、新しい時代に対応したまちづくりを進めていきます。



《第5次振興計画 基本構想の内容》

7 チャレンジ目標①
一人ひとりが時代に即した暮らしへの転換【箕輪ならではの豊かさの追求】 — **みのチャレ**

「世界に誇るセーフコミュニティのまち」安全・安心チャレンジ

目的
「地域の絆、協働、継続」をキーワードに、セーフコミュニティ国際基準による徹底した安全・安心の追求により、「心安らぐ豊かな暮らしができるまち箕輪」を目指します。

目標
・セーフコミュニティアンケート調査「箕輪町の暮らしは、総じて安全だと思いますか」に対する「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える人の割合の増加（平成27年度（2015年度）結果：72.0%）
・セーフコミュニティ国際認証の再認証

概要
町民が、箕輪町の暮らしに対して安全・安心だという実感を高めるための取組みを進めます。
①「衣、食、住」分野へのセーフコミュニティ（安全・安心のまち）宣伝
②保育園児等への危険予知トレーニングの導入
③通学路の安全設備の設置とグリーンベルトの設置
④新たにセーフコミュニティのモデル企業、モデル保育園を設置
⑤「あいさつで広げよう地域の絆」をテーマにセーフコミュニティ活動を全町に展開
⑥ふるさと応援寄附金に「安全・安心のまちづくり」への寄附枠を創設 他

町民の役割

「私」ができること
・セーフコミュニティに関心を持つ
・あいさつを心がける
・交通安全、防災、防災に賛同する
・通学パトロールをはじめ各種団体の取組みに参加する

「みんな」のできること
・企業としてセーフコミュニティの取組みに協賛・協力をする
・みんなで交通安全、防災、防災の活動に取り組み
・各区のセーフコミュニティ推進協議会の活動に取り組む
・PTAや区として通学路危険箇所の点検に協力する
・通学パトロール等の活動を行う

【基本計画関連施設】
第1章 — 第2節 — 各施策 P54他
第5章 — 第2節 — 施設1 P87

■ 第5次振興計画におけるセーフコミュニティの位置付け

第5次振興計画は、基本構想、基本計画、区（自治会組織）の将来像によって構成されています。基本計画では、「安全・安心の推進」として、①災害に強いまちづくり、②消防体制の強化、③犯罪のないまちづくり、④交通安全対策等の推進など、各施策について明記しています。

基本構想では、17の重点的な取組みを定め、そのひとつを『「世界に誇るセーフコミュニティのまち」安全・安心チャレンジ』とし、S C国際基準による安全・安心の追及を目指しています。

将来像：「みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町」

チャレンジ名：『「世界に誇るセーフコミュニティのまち」安全・安心チャレンジ』

目標 1：箕輪町の暮らしが総じて安全だと思う人の割合を現状値 72%から増加させる

目標 2：セーフコミュニティ国際認証の再認証

計画期間：2016年～2025年

[2] 安全・安心に関する条例の制定等

箕輪町では、安全・安心の向上のための条例等を制定しています。条例の制定は、安全・安心な取組みの継続性のほか、法的な根拠に基づきS C活動が推進されることにより、安全・安心な地域社会の実現に寄与しています。

■ 箕輪町安全なまちづくり条例（2004年9月22日制定）

箕輪町安全なまちづくり条例は、生活の安全に関し、町民の意識の高揚と自主的な安全活動の推進を図るとともに、生活環境の整備を行うことにより、安全で住みよい地域社会の実現を図るために制定しました。

■ 箕輪町交通安全条例（1998年9月24日制定）

箕輪町交通安全条例は、交通安全の確保に関する施策の基本を定めることにより、住民の安全で快適な生活の実現のために制定しました。特徴は、住民の責務として、自主的に交通安全の確保に努めることと、町及び関係機関等が実施する交通安全施策への協力を義務付けています。

■ 箕輪町暴力団排除条例（2011年9月21日制定、2012年9月25日改正）

箕輪町暴力団排除条例は、暴力団の排除について、暴力団の排除に関する施策の基本となる事項を定めることにより、暴力団の排除を推進し、すべての町民が安全で安心して生活できる住みよい地域社会であるセーフコミュニティの実現を目指しています。特徴としては、S Cの導入を受け、既存条例を改正し、その目的として「セーフコミュニティの実現」を新たに加えています。

■ 箕輪町安全安心の日宣言（2014年3月17日宣言）

S C認証取得日の5月12日を記念し、毎年5月12日を「箕輪町安全安心の日」とすることを宣言しました。全町民の皆さんがS C活動の推進を期する日として、毎年、町民参加の「箕輪町安全安心の日の集い」を開催しています。

Supplement 3

(補足資料 3)

Safe Community Promotion System

(セーフコミュニティ推進体制)

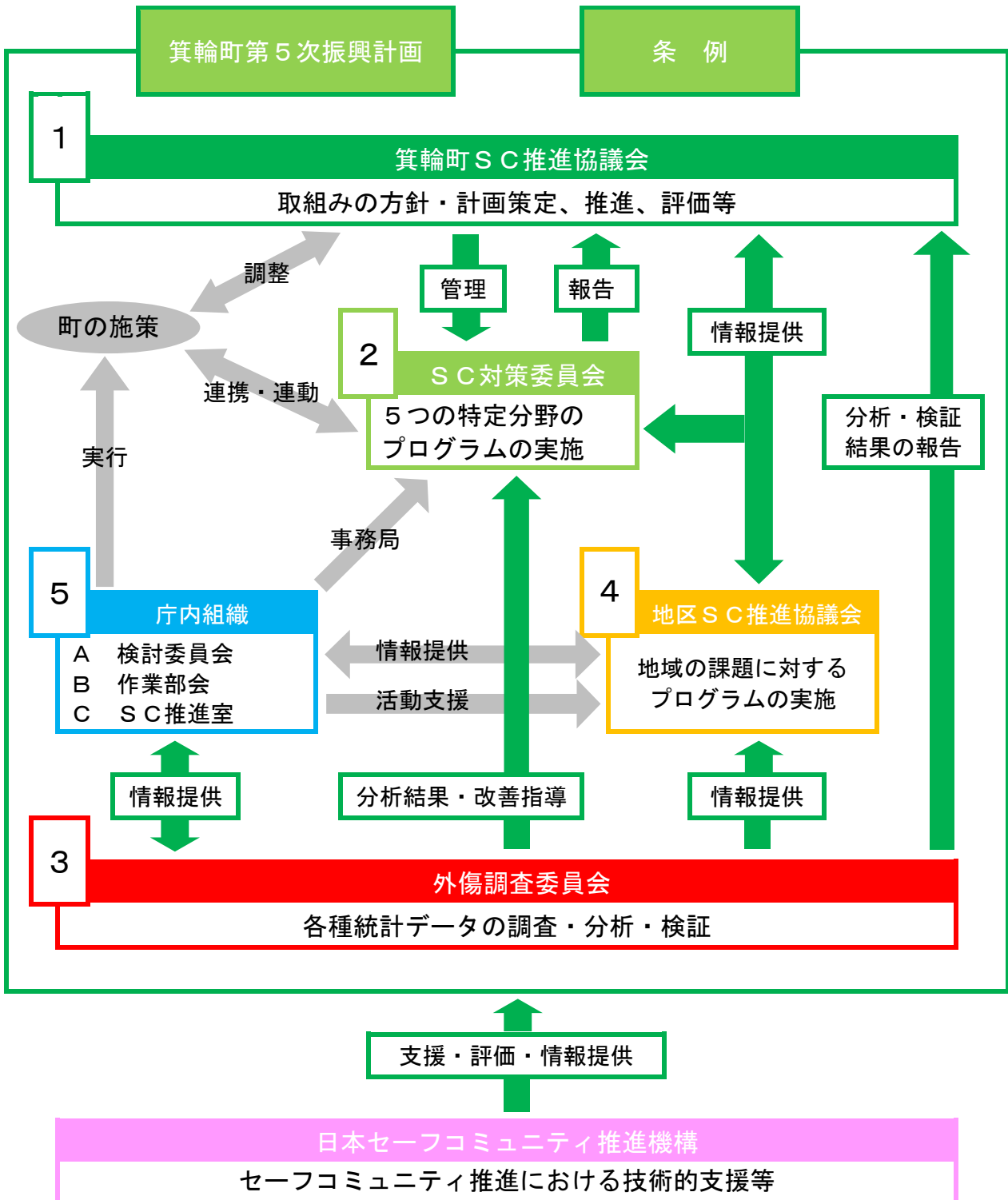


[1] セーフコミュニティ推進体制

■ 推進体制の全体像

箕輪町のセーフコミュニティ推進体制は、次のとおりです。なお、各組織の機能、評価等はフロー図に示しています。

【図表 3-1】



1 箕輪町セーフコミュニティ推進協議会

■ 役割

箕輪町のＳＣ活動の推進母体として、またＳＣ活動方針や重点施策等の意思決定機関として設置しました。

委員は、安全・安心に関する活動を実施している町民団体等、関係機関等、教育関係及び行政関係らの代表者等から選出し、ＳＣの取組みを分野横断的に推進する体制を構築しています。なお、会議は、毎年５月と１１月の年２回、定期的に開催しています。

また、箕輪町のＳＣ活動における共通・共感テーマである「あいさつで広げよう地域の絆」の推進や、５月１２日の「箕輪町安全安心の日」を記念して毎年行われる「箕輪町安全安心の日の集い」を開催しています。

■ 構成

- ・ 構 成 員 68 団体 72 人
- ・ 会 長 箕輪町長
- ・ 副 会 長 箕輪町区長会長
- ・ アドバイザー 日本ＳＣ推進機構代表理事



箕輪町セーフコミュニティ推進協議会

町民団体 ほか (36 団体)	箕輪町区長会（沢区長、大出区長、八乙女区長、下古田区長、上古田区長、中原区長、松島区長、木下区長、富田区長、中曽根区長、三日町区長、福与区長、長岡区長、南小河内区長、北小河内区長）、箕輪町交通安全協会、箕輪交通安全緑十字会、伊那少年警察ボランティア協会箕輪ブロック、箕輪町保育園保護者会、箕輪町長寿クラブ連合会、箕輪町国際交流協会、箕輪町ボランティア連絡協議会、箕輪町身体障がい者福祉協会、箕輪町商工会、ＪＡ上伊那箕輪町地区、箕輪町ロータリークラブ、箕輪中学校安全願い隊、中部小安全みまもり隊、北小通学パトロールの会、西小通学パトロール隊、東小みまもり隊（長岡区、南小河内区、北小河内区）、南小みまもり隊、箕輪町青色パトロール隊、防災士箕輪町連絡会
関係機関 ほか (12 団体)	箕輪町消防団、安全運転管理者上伊那支部箕輪部会、箕輪町医師会、箕輪町歯科医師会、箕輪町薬剤師会、箕輪町人権擁護委員会、箕輪町民生児童委員協議会、箕輪町日赤奉仕団、箕輪町保育園長会、伊那青年会議所、上伊那地区保護司会北部分区、箕輪町公民館
教育関係 (15 団体)	箕輪町教育委員会、箕輪進修高等学校、箕輪中学校、箕輪中部小学校、箕輪北小学校、箕輪西小学校、箕輪東小学校、箕輪南小学校、箕輪進修高等学校ＰＴＡ、箕輪中学校ＰＴＡ、箕輪中部小学校ＰＴＡ、箕輪北小学校ＰＴＡ、箕輪西小学校ＰＴＡ、箕輪東小学校ＰＴＡ、箕輪南小学校ＰＴＡ
行政関係 (5 団体)	箕輪町議会、伊那警察署、箕輪町社会福祉協議会、箕輪消防署、箕輪町

2 セーフコミュニティ対策委員会

■ 役割

箕輪町では、統計データ等の分析や、アンケート結果等により抽出した課題に対し、特定の領域に取り組む5つの対策委員会を設置しました。対策委員会は、各分野における外傷リスクへの対策を検討し、実施し、評価をしています。

なお、各対策委員会の事務局は町が担っており、町の施策と連携・連動させたプログラムにより、効果的な取組みに繋がっています。

■ カバーする分野及び構成団体・組織

交通安全対策委員会		◎＝委員長	○＝副委員長
構成	町民団体等 (4人)	◎箕輪町交通安全協会 会長 箕輪町交通安全協会 副会長 箕輪町交通安全協会 女性部長 箕輪交通安全緑十字会 会長	
	関係機関等 (2人)	○長野県安全運転管理者上伊那支部箕輪部会 部会長 長野県地域交通安全活動推進委員	
	行政関係 (2人)	伊那警察署交通課 係長 箕輪町建設課 課長	

高齢者の安全対策委員会		◎＝委員長	○＝副委員長
構成	町民団体等 (4人)	箕輪町長寿クラブ連合会 会長 箕輪町長寿クラブ連合会 女性部長 宅老所しばみや ふれあいサロンまつしま	
	関係機関等 (3人)	◎箕輪町民生児童委員協議会 ○箕輪町民生児童委員協議会 箕輪町公民館正副分館長 会長	
	行政関係 (4人)	伊那警察署生活安全課 係長 箕輪町社会福祉協議会 事務局長 箕輪町福祉課 課長 箕輪町教育委員会文化スポーツ課 課長	



【交通安全対策委員会】



【高齢者の安全対策委員会】

子どもの安全対策委員会			◎＝委員長	○＝副委員長
構成	町民団体等 (4人)	南小見守り隊 隊長 伊那少年警察ボランティア協会 箕輪ブロック長 小中学校PTA連合会 会長 保育園保護者会 会長		
	関係機関等 (5人)	◎箕輪町社会教育委員会 委員長 ○箕輪町民生児童委員協議会 副会長 長野県箕輪進修高等学校 教頭 小中学校校長会 代表 保育園長会 会長		
	行政関係 (3人)	伊那警察署生活安全課 係長 箕輪町子ども未来課 課長 箕輪町教育委員会学校教育課 課長		

くらしの安全対策委員会			◎＝委員長	○＝副委員長
構成	町民団体等 (5人)	◎箕輪町商工会 会長 箕輪町身体障がい者福祉協会 会長 箕輪町国際交流協会 会長 JA上伊那箕輪町地区 代表理事 箕輪町青色パトロール隊 代表		
	関係機関等 (2人)	○箕輪町消防団 団長 箕輪町日赤奉仕団		
	行政関係 (4人)	箕輪町交番 所長 箕輪町住民環境課 課長 箕輪町商工観光推進室 室長 箕輪町総務課消防防災係 係長		

自殺予防対策委員会			◎＝委員長	○＝副委員長
構成	町民団体等 (2人)	○南信病院 院長 ひまわりの会 代表		
	関係機関等 (5人)	◎信州大学医学部 准教授 箕輪町人権擁護委員会 代表 箕輪町保健補導員会 会長 箕輪町男女共同参画社会推進協議会 会長 箕輪町民生児童委員協議会 副会長		
	行政関係 (4人)	伊那保健福祉事務所健康づくり支援課 課長 伊那警察署生活安全課 課長 箕輪町税務課 課長 箕輪町健康推進課 係長		

※なお、各対策委員会は、必要に応じて随時開催としているが、基本的には年3回以上開催しており、毎回の会議には日本SC推進機構の白石陽子代表理事がアドバイザーとして出席され、指導・助言を受けています。

3 外傷調査委員会

■ 役割

箕輪町の外傷データの分析や検証等を行う組織として、外傷調査委員会を設置しています。

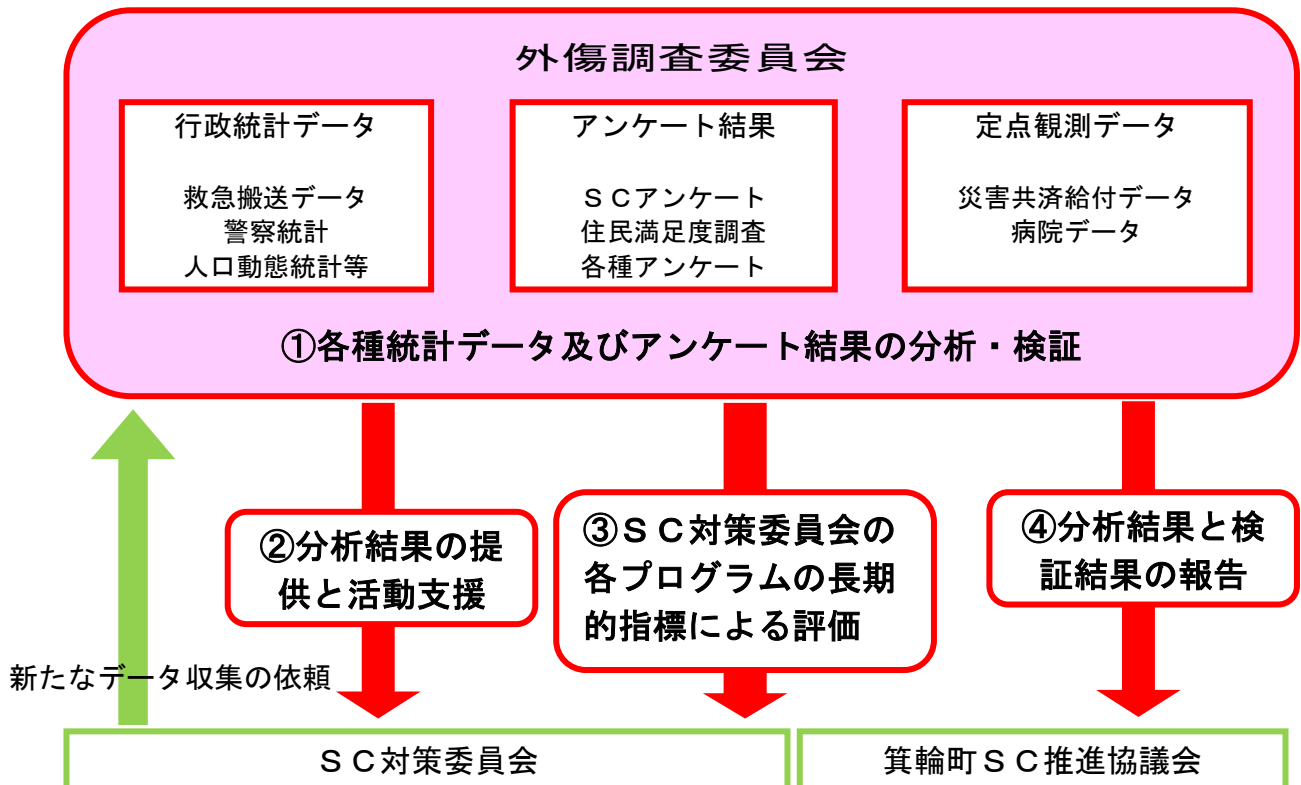
外傷データの分析結果等は箕輪町SC推進協議会に報告するとともに、SC対策委員会や地区SC推進協議会、庁内組織等に情報提供しています。

外傷調査委員会は、SC対策委員会の統括的な存在として、2年に1回実施しているSCアンケートの調査項目の検討・分析も行っています。さらには、SC対策委員会が実施する各プログラムの長期的指標の評価も担っています。

■ 構成

外傷調査委員会		◎=委員長	○=副委員長
構成	関係機関等 (3人)	◎信州大学医学部 准教授 伊那中央病院救命救急センター 医師 伊那中央病院診療情報管理室 診療情報管理士	
	行政関係 (4人)	○伊那警察署 署長 箕輪消防署 署長 箕輪町総務課 課長 箕輪町健康推進課 課長	

■ 活動内容並びに他との関係性 【図表3-2】



4 地区セーフコミュニティ推進協議会

■ 役割

箕輪町では、SCの導入により、自主的に地域の安全・安心に関する課題の解決に取り組む「地区セーフコミュニティ推進協議会」が組織されています。

箕輪町には、15の自治会（区と呼称）がありますが、そのうちの5つの区で「地区セーフコミュニティ推進協議会」が立ち上げられており、全町展開に向け、その数は徐々に増えています。

地区SC推進協議会は、「町SC推進協議会」や「SC対策委員会」等と連携しながら、自主的・主体的に各地域の安全・安心の独自課題について検討・実施・評価を行うなど、地域レベルでSCの取組みを推進しています。

■ 運営

地区SC推進協議会は、全て各地域の独自裁量による自主運営としています。したがって、組織形態、規約、予算決算、事業計画、取組内容など、全てが各地区に委ねられています。

■ 組織化までの流れ

地区SC推進協議会は、最初に、行政のSC担当者や既に立ち上がっている他地区SC推進協議会の役員などを招いて、SCについて学習会等を重ねます。SCの理念や手法等を理解したうえで、地区SC推進協議会を立ち上げるかどうかを決定します。

立ち上げが決まると、組織形態、役員体制、規約について検討・決定しながら、安全・安心に関する地域診断とワークショップ等による課題の抽出を行います。そして、地域の重点課題を決定し、各部会を立ち上げ、対策プログラムについて検討し、実施します。

各部会では、毎年各対策プログラムの結果を踏まえ、評価を行い、地区SC推進協議会に報告し、次の取組みに反映させています。

■ 特徴

地区SC推進協議会の特徴としては、地域内における従来までの既存団体や既存活動を上手く活用し、地域内住民への負担を減らすとともに、効率的・効果的な活動になるよう工夫がなされています。さらには、地区SC活動を通じて、地域内住民の結束を高めることにより、コミュニティの強化にも生かされています。

■ 行政（箕輪町）との関係

地区SC推進協議会は、行政から情報提供や講師派遣などの支援を受けています。中でも、地区SC活動を経済的に支援するために2015年10月に創設された「箕輪町SC活動推進補助金」は、1年で20万円、累計100万円を上限とし、広く安全・安心に関することに活用できるよう、自由度が高く設定されており、地区SC活動の推進に寄与しています。

また、地区ＳＣ活動を広く町内外に発信する手段として、町ホームページに紹介ページが設けられています。

■ 箕輪町ＳＣ推進協議会及びＳＣ対策委員会との関係

地区ＳＣ推進協議会は、箕輪町ＳＣ推進協議会とＳＣ対策委員会に対し、相互に情報交換しています。更には、ＳＣ対策委員会で設定した対策プログラムについて、地区ＳＣ推進協議会の部会でも連動して、プログラムに取り入れたり（例：あいさつ運動）、逆に、地区ＳＣ推進協議会での取組みが、ＳＣ対策委員会の取組みに繋がる（例：感震ブレーカー）こともあります。

■ モデル地区

箕輪町ＳＣ推進協議会は、2010年8月、一番最初に地区ＳＣ推進協議会が立ち上がった北小河内地区を、ＳＣ活動を推進するうえでの「モデル地区」として指定しました。北小河内地区は、地域でのＳＣ活動を推進し、その動きを他地区へと広げる、見本的な活動を展開しています。

さらに、2015年11月には、富田地区と福与地区が新たに「モデル地区」として指定されることで、更なる全町展開に向けた動きを加速させるものとなりました。

このモデル地区は、箕輪町ＳＣ推進協議会やＳＣイベントでの活動報告などはもちろんのこと、日本国内における他のＳＣ推進自治体からの依頼を受け、活動発表を行うなど、町内外を問わず、ＳＣの普及・啓発に尽力しています。

このモデル地区の活動に対し、日本ＳＣ推進機構から、2015年には北小河内セーフコミュニティ推進協議会が「功労賞」を、2016年には富田地区安全安心推進協議会が「奨励賞」を受賞しました。

■ 状況

地区ＳＣ推進協議会名	北小河内セーフコミュニティ協議会
呼称	K S C
設立年月	2009年3月
地区内人口・世帯	1,090人 368世帯（2016年10月1日現在）
部会	企画班、自主防災班、交通安全班、生活環境班、家庭安全班
モデル地区の指定日	2010年8月

地区ＳＣ推進協議会名	富田地区安全安心推進協議会
呼称	T A A
設立年月	2013年1月
地区内人口・世帯	390人 130世帯（2016年10月1日現在）
部会	広報班、交通安全部会、子供安全部会、防災救命部会、高齢者家庭部会

モデル地区の指定日	2015年11月
地区SC推進協議会名	八乙女セーフコミュニティ推進協議会
呼称	YSC
設立年月	2013年4月
地区内人口・世帯	494人 181世帯（2016年10月1日現在）
部会	交通安全部会、子ども安全部会、高齢者の安全部会、防災生活部会
モデル地区の指定日	—

地区SC推進協議会名	福与区セーフコミュニティ推進協議会
呼称	—
設立年月	2015年10月
地区内人口・世帯	751人 246世帯（2016年10月1日現在）
部会	交通安全対策委員会、くらしの安全対策委員会、自主防災委員会
モデル地区の指定日	2015年11月

地区SC推進協議会名	中原区セーフコミュニティ推進協議会
呼称	NSC
設立年月	2016年6月
地区内人口・世帯	353人 130世帯（2016年10月1日現在）
部会	災害等緊急時対策委員会、交通安全対策委員会、暮らしの安全対策委員会
モデル地区の指定日	—



【KSC 生活環境班による危険箇所調査】



【TAA 交通安全部会の通学路危険箇所踏査】

5 庁内組織

セーフコミュニティ活動を側面から支援するとともに、町の施策と連携して展開するために、町内に分野横断的な組織を設置しています。

■ A 検討委員会

検討委員会は、庁内で安全・安心に関係する課等の長で組織され、箕輪町SC推進協議会やSC対策委員会からの提案に対し、町の施策との調整や検討を行います。

また、検討委員会の委員は、そのほとんどが箕輪町SC推進協議会の委員又はSC対策委員会の委員として参画していることで、スムーズな連携が図られています。

■ B 作業部会

作業部会は、庁内のSCに関係する係長で組織され、箕輪町SC推進協議会やSC対策委員会からの提案に対し、町の施策との具体的な連携・連動を計画し、実行するための手段を講じます。

また、作業部会の委員は、SC対策委員会の委員又は事務局員として参画することにより、効率的・効果的な連携に繋がっています。

■ C SC推進室

箕輪町役場総務課内にセーフコミュニティ推進室を、庁内におけるSC担当部局として、2011年4月から設置しています。

主な業務は、箕輪町SC推進協議会の事務局としての役割や、SC対策委員会及び外傷調査委員会の事務局の役割、さらには地区SC推進協議会との調整や支援、関係機関や団体、庁内他課との調整などの実務を行っています。

また、SC活動に関する情報の収集及び発信を集約するなど、箕輪町のセーフコミュニティ活動を総括しています。さらには、役場職員や一般住民を対象とした研修会などの企画・実行や、他SC推進自治体への視察などを担当しています。



【SC推進室による研修会での報告】



【JISC白石陽子代表理事による研修会での講演】

Supplement 4

(補足資料 4)

Overview of External Injury Risks

(外傷リスクの概要)



[1] 死亡及び外傷の原因

■ 年齢層別の死亡原因上位 5 位

死亡統計によると、15 歳から 39 歳の死亡原因の 1 位は「自殺」となっています。また、「自殺」は、15 歳から 59 歳の上位 5 位に入っており、多くの年齢層において死亡原因の上位を占めています。「自殺」以外の外的要因による死亡原因を見ると、5 歳から 74 歳までのほとんどの年齢層で「事故・災害」が上位に入っています。

【図表 4-1】 出典：死亡統計（2010～2015 年）

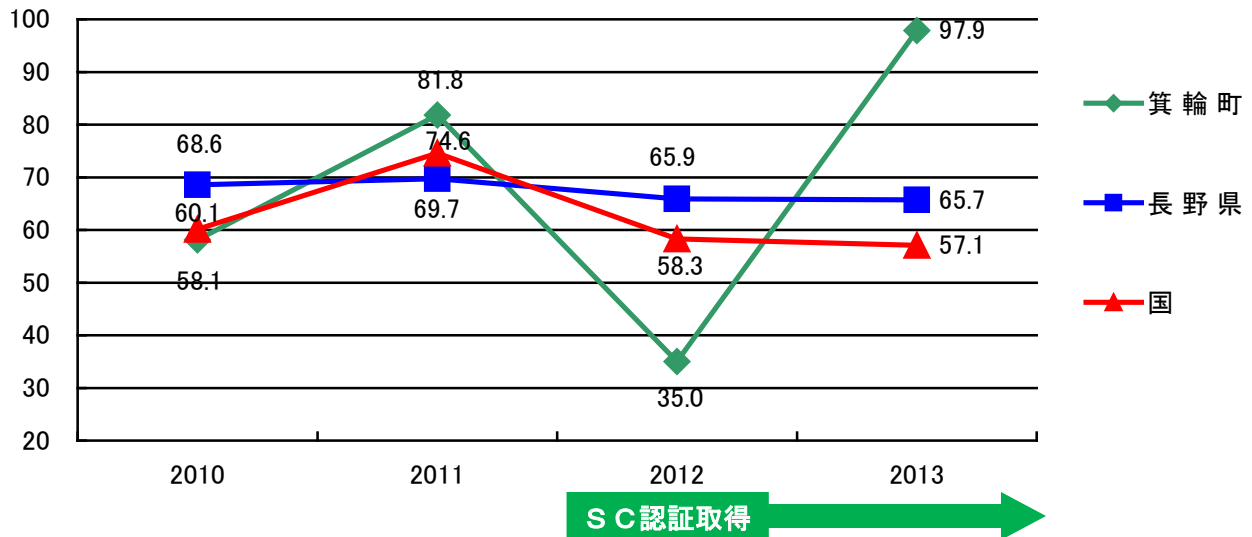
年齢	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～4	その他				
5～9	がん、 事故・災害				
10～14	事故・災害				
15～19	自殺	がん			
20～24	自殺				
25～29	自殺	事故・災害			
30～34	自殺	がん、その他			
35～39	がん、脳血管疾患、 自殺 、消化器疾患、 事故・災害				
40～44	脳血管疾患	自殺 、 事故・災害 、その他			がん
45～49	がん	その他	心疾患、呼吸器疾患、 自殺 、 事故・災害		
50～54	がん	心疾患	その他	呼吸器疾患、 自殺 、消化器疾患 腎臓疾患、 事故・災害	
55～59	がん	自殺	その他	心疾患、脳血管疾患	
60～64	がん	心疾患	その他	脳血管疾患	消化器疾患
65～69	がん	呼吸器疾患	心疾患	その他	脳血管疾患 事故・災害
70～74	がん	呼吸器疾患	心疾患	事故・災害	その他
75～79	がん	心疾患	呼吸器疾患	その他	脳血管疾患
80～84	呼吸器疾患	がん	心疾患	脳血管疾患	老衰
85～89	心疾患	呼吸器疾患	がん	老衰	脳血管疾患
90～	老衰	呼吸器疾患	心疾患	がん	脳血管疾患

■ 国・県・町別の外的要因による死亡者数の推移（人口10万人対）

人口10万人当たりの外的要因による死亡者の割合を国、長野県、箕輪町で比べると、箕輪町は長野県や国を上回る傾向にあります。

【図表4-2】 出典：人口動態統計

(人/人口10万人)

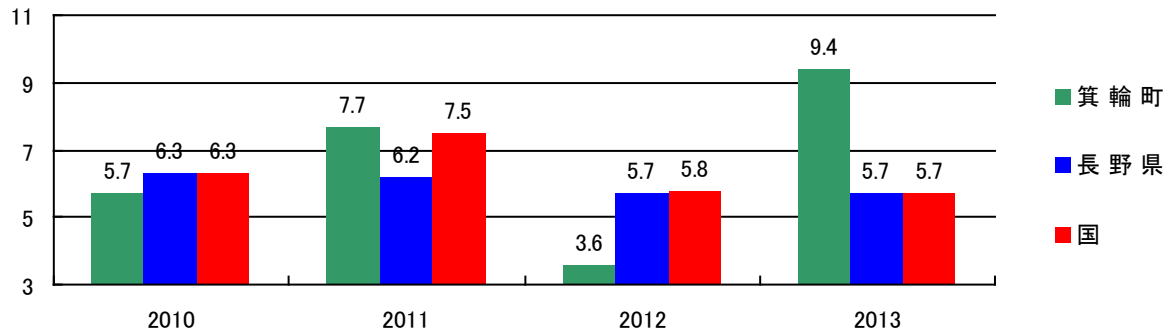


■ 国・県・町別の全死亡者数に占める外的要因による死亡の割合

箕輪町の死亡者全体に占める外的要因による死亡者の割合は、国、県と同等または上回る傾向にあります。

【図表4-3】 出典：人口動態統計

(%)

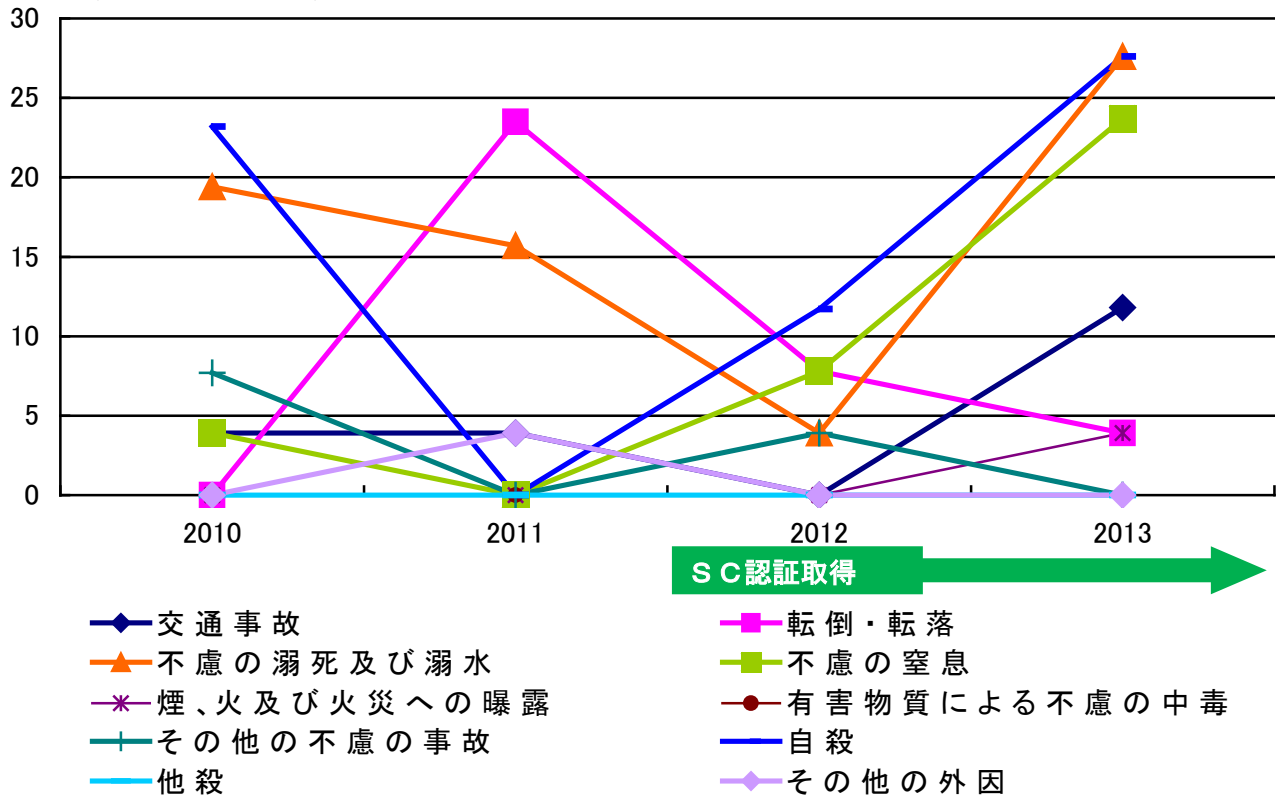


		2010年	2011年	2012年	2013年
全死亡者数	箕輪町	261	274	250	265
	長野県	23,133	23,887	24,474	24,303
	国	1,197,021	1,253,066	1,256,359	1,268,436
うち外的 要因による 死亡者数	箕輪町	15	21	9	25
	長野県	1,455	1,475	1,387	1,377
	国	75,965	94,114	73,469	71,767

■ 外的要因別の死亡率の推移

外的要因別の死亡者数は、概ね「自殺」が多く、「不慮の溺死及び溺水」、「不慮の窒息」が増加傾向にあります。

【図表 4-4】 出典：人口動態統計
(人/人口 10 万人)



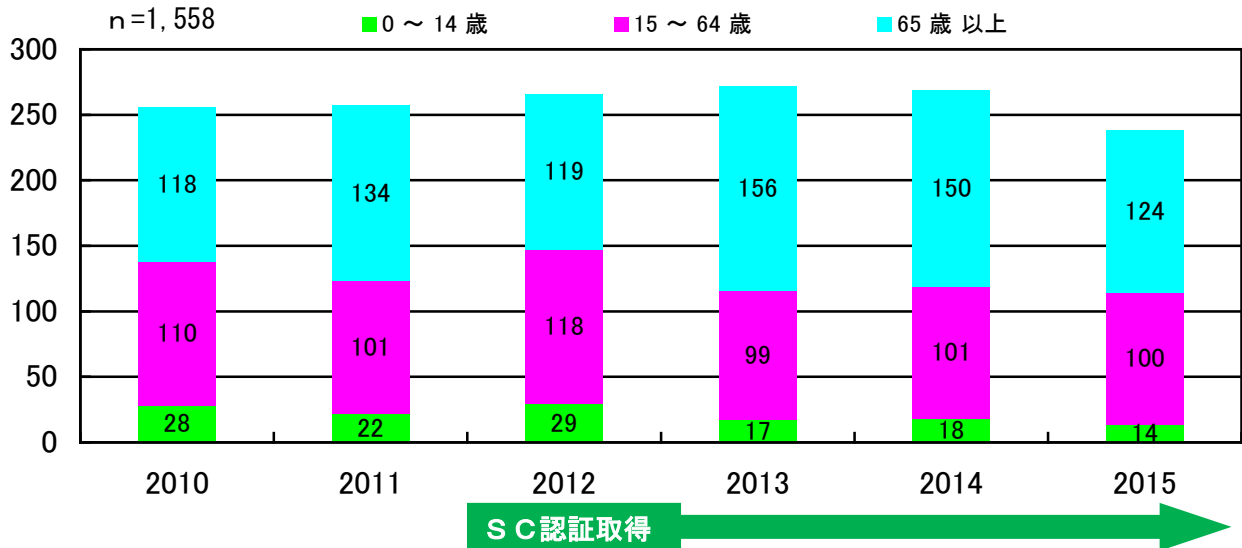
【図表 4-4】 の各項目の数値

(人/人口 10 万人)	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年
交通事故	3.9	3.9	0	11.8
転倒・転落	0	23.5	7.8	3.9
不慮の溺死及び溺水	19.4	15.7	3.9	27.6
不慮の窒息	3.9	0	7.8	23.7
煙、火及び火災への曝露	0	0	0	3.9
有害物質による不慮の中毒	0	0	0	0
その他の不慮の事故	7.7	0	3.9	0
自殺	23.2	0	11.7	27.6
他殺	0	0	0	0
その他の外因	0	3.9	0	0

■ 年代別の外的要因による救急搬送人数の推移

年代別の救急搬送人数を見ると、0歳～14歳では減少、15歳～64歳では横ばい、65歳以上では増加傾向をたどり、2015年に減少しています。

【図表 4-5】 出典：救急搬送データ（2010～2015）

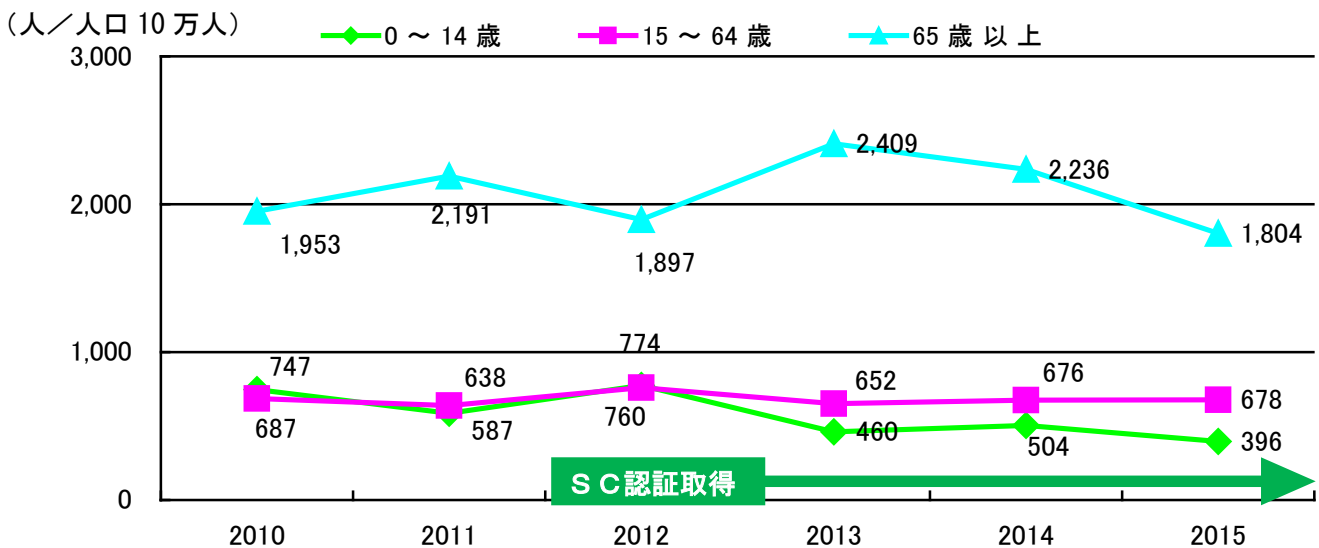


■ 年代別の外的要因による救急搬送人数の推移（人口10万人対）

人口10万人当たりの年代別の救急搬送人数を見ると、0歳～14歳、15歳～64歳は横ばい、65歳以上は2013年に急増したものの、それ以降は減少傾向にあります。

なお、65歳以上の救急搬送人数は、他の年齢階層よりも多く、その要因は、高齢者になると外傷による影響が大きくなるためと考えられます。

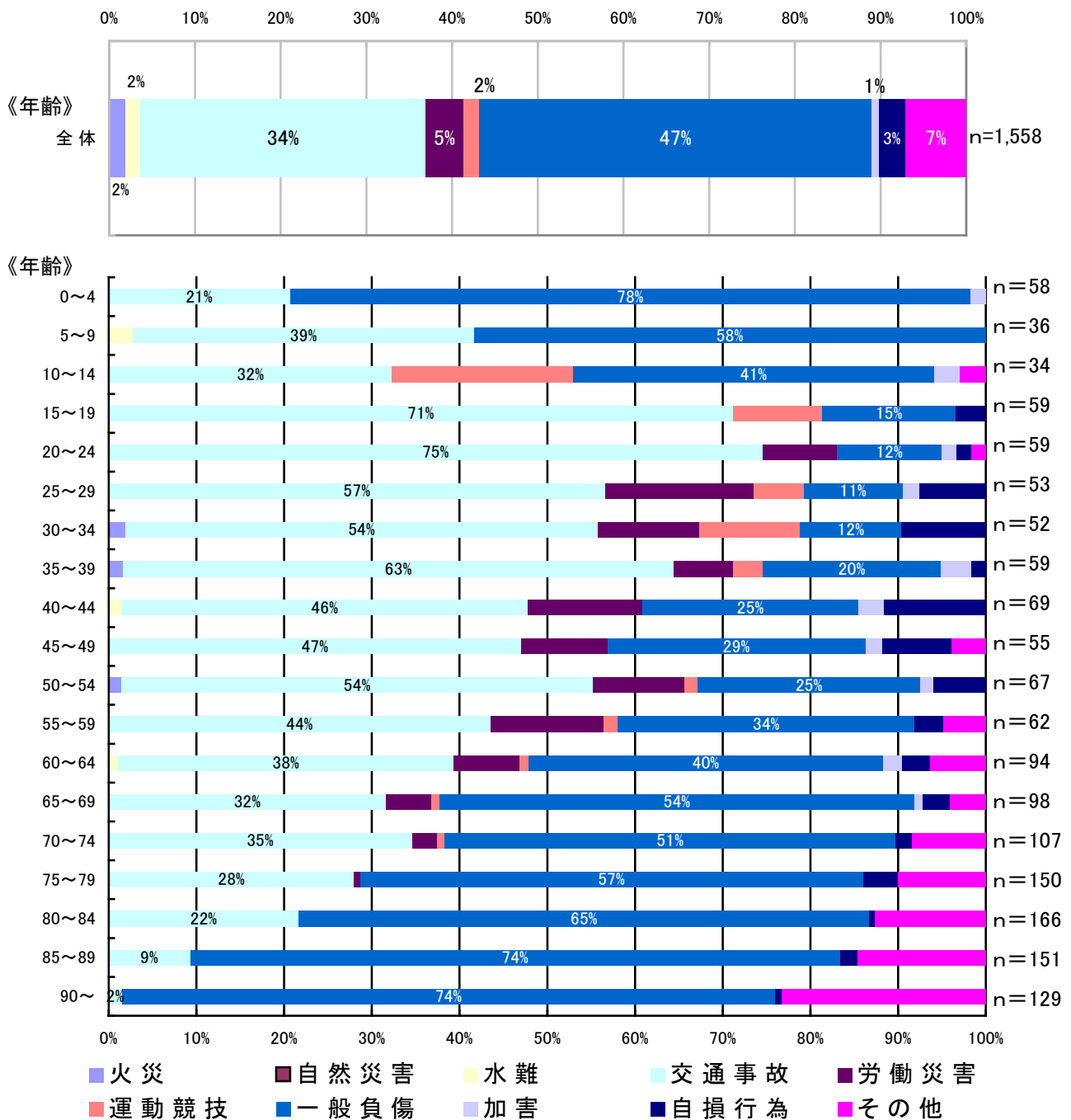
【図表 4-6】 出典：救急搬送データ（2010～2015）



■ 年齢層別の外的要因による救急搬送人数の割合

「交通事故」及び「一般負傷」を合わせると外的要因による救急搬送人数は、約 80%の割合を占めています。「交通事故」は、5 歳から 74 歳までの各年代で 30%以上の割合を占めており、中でも 15 歳から 24 歳までは 70%を超えています。「一般負傷」も幅広い年代で高い割合を占めていますが、特に 0 歳から 4 歳までの年代で 78%を占めています。また、65 歳以上の各年代では 50%を超えており、85 歳以上の年代では 70%を超えています。

【図表 4-7】 出典：救急搬送データ（2010～2015）



[2] 5つの重点課題を導き出したデータ

箕輪町では、救急搬送データ、病院データ、死亡統計、アンケート調査、警察統計などの事故やケガのデータの分析結果による客観的視点と、ワークショップ等による主観的観点から総合的に判断し、「5つの重点課題」が明らかになりました。

【図表 4-8】 出典：総務課SC推進室

重点課題	データから導き出した課題	図表番号
交通安全	交通事故件数は、SC認証前の2011年が93件、2016年が95件と横ばい状況にあるものの、そのうちの高齢者事故割合は、30件32.3%が、44件46.3%へと増加傾向にある。	4-10 4-11 4-12 9-1
	2010年～2015年の外的要因による救急搬送1,573件のうち、交通事故は546件と34.7%を占めている。	4-7 4-13
高齢者の安全	2000年に18.9%だった高齢化率が、2015年には27.3%と年々増加している。	4-14 5-1
	2010～2015年の外的要因による高齢者の救急搬送割合は、50.9%と最も高く、SC認証前の2010年は118件45.6%であったが、2015年には、124件51.2%と増加傾向にある。	4-5 4-15
子どもの安全	2010～2015年の外的要因による子ども（0～19歳）の救急搬送件数の割合は11.9%で、SC認証前の2010年には35件13.5%が、2015年には30件12.4%と減少傾向にあるものの、比率は高い。	4-17 4-18
	2010～2015年の外的要因による子どもの救急搬送件数187件のうち、0～6歳は40.6%を占めている。	9-3 4-19
くらしの安全	声かけ事案の発生件数は、2006年～2010年の5年間で8件であったが、2011～2015年では17件と急増している。ただし、17件のうち9件は2015年に同一犯が複数回行ったものと判明している。	4-20 9-5
	独居世帯における体感治安の状況として、不安を感じる人の割合は、2013年には17.2%であったが、2015年には3.7%と減少傾向にあるものの、不安除去の必要性はある。	4-23 9-6
自殺予防	自殺者数（人口10万人対）は、2010年と2014年を比較すると、23.2人が11.9人と51.3%減少しているが、まだ多い。	4-24 4-25 9-7
	2010～2015年の外的要因による救急搬送件数のうち、自損行為によるものが50件、3.2%となっており、そのうち20～60歳代の男性が40%を占めている。	4-7 4-26 4-27

■ 交通安全

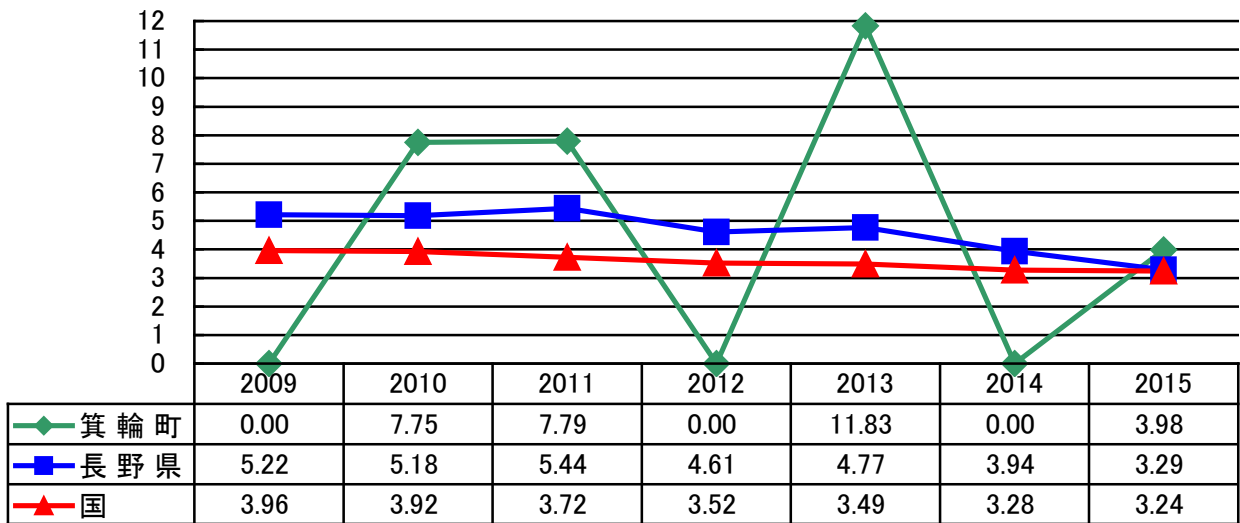
交通安全のキーは『高齢者』です。高齢者への交通安全対策がポイントです。

① 交通事故による死亡者数の推移（人口10万人対）

箕輪町における交通事故死亡者数は、件数が少ないこともあり、年によってその増減が大きく、傾向がつかみにくい状況にあります。

【図表 4-9】 出典：警察統計

(人/人口10万人)

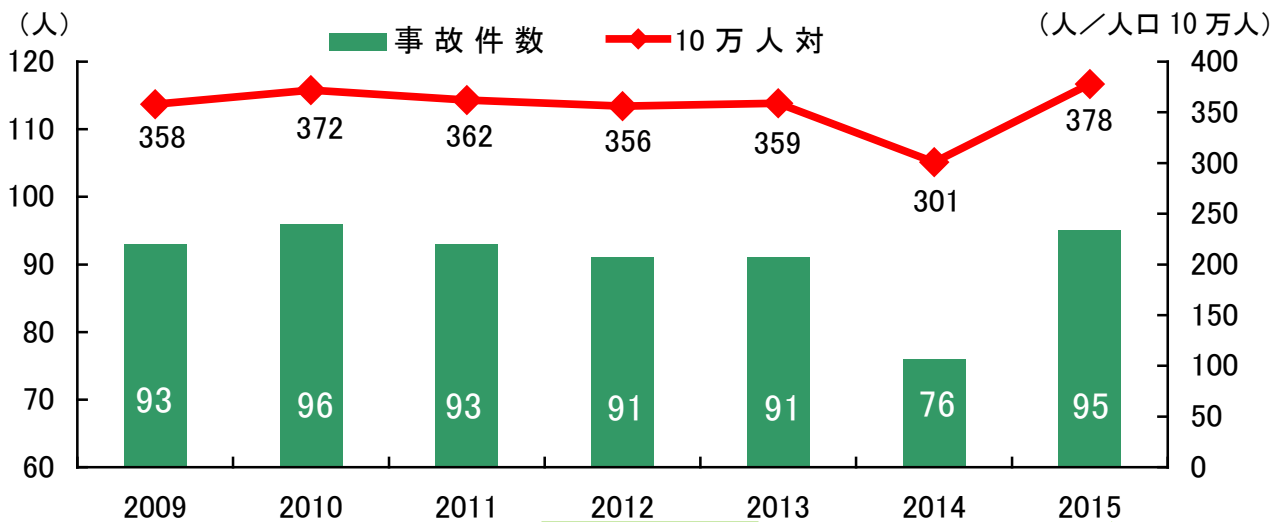


SC認証取得 →

② 交通事故発生件数の推移（件数及び人口10万人対）

交通事故発生件数は、年々減少してきていましたが、2015年は増加に転じました。

【図表 4-10】 出典：警察統計



SC認証取得 →

③ 交通事故区分別発生状況（2010～2015）

2010年から2015年における交通事故のうち、高齢者が関係する事故の構成比率は24.5%を占めており最も多くなっています。

【図表 4-11】 出典：伊那警察署（交通事故のあらまし）

事故区分	2010	2011	2012	2013	2014	2015	合計 (%)
夜間の事故	23	24	20	18	17	17	119 (12.6%)
女性運転手事故(1当)	33	45	37	29	37	36	217 (22.9%)
若年運転手事故(1当)	9	15	18	11	15	11	79 (8.3%)
高齢運転手事故(1当)	21	13	22	33	18	34	141 (14.9%)
二輪車の事故	4	8	6	3	3	3	27 (2.8%)
飲酒運転の事故	2	0	0	2	0	1	5 (0.5%)
高齢者の事故	35	30	33	59	31	44	232 (24.5%)
歩行者の事故	9	17	8	14	9	12	69 (7.3%)
自転車の事故	4	4	6	6	1	4	25 (2.6%)
こどもの事故	6	12	7	4	2	3	34 (3.6%)
合計	146	168	157	179	133	165	948 (100%)

SC認証取得 

④ 高齢者の交通事故状況（2011～2015）

高齢者における交通事故割合は、SC認証取得前の2011年には、長野県とほぼ同じ32.3%でしたが、徐々に増加し、2015年には46.3%といった状況です。

【図表 4-12】 出典：長野県警察本部交通部及び伊那警察署（交通事故のあらまし）

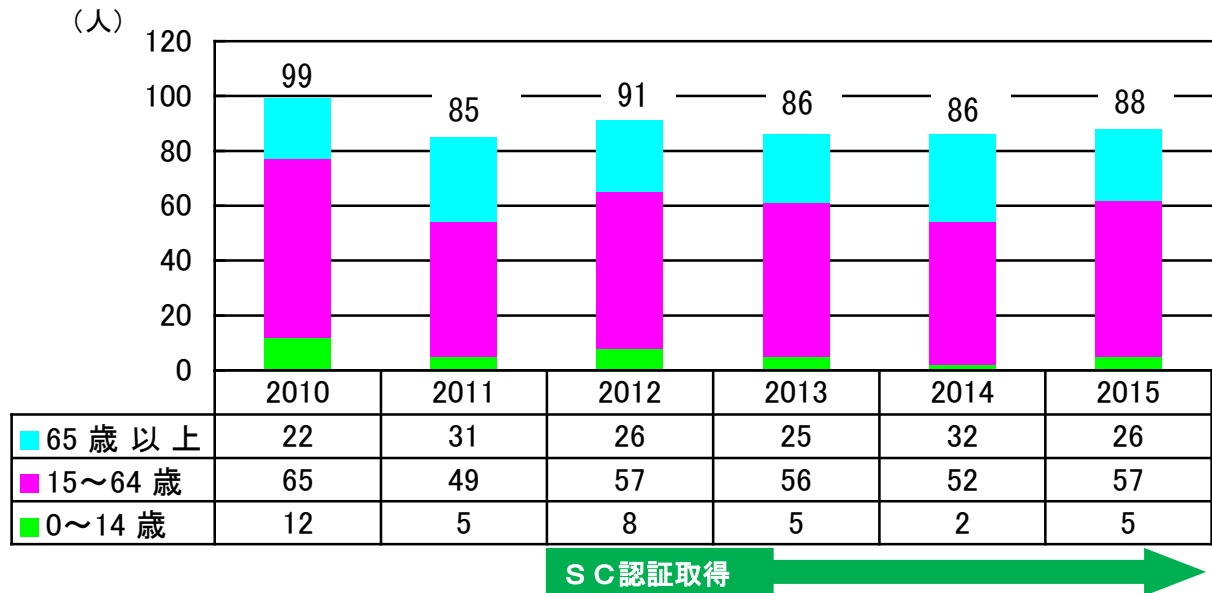
	区分	2011	2012	2013	2014	2015
総交通事故件数	県	10,568	10,403	9,858	9,286	8,867
	町	93	91	91	76	95
うち高齢者事故件数	県	3,379	3,397	3,289	3,318	3,273
	町	30	33	59	31	44
高齢者事故割合	県	32.0%	32.7%	33.4%	35.7%	36.9%
	町	32.3%	36.3%	64.8%	40.8%	46.3%

SC認証取得 

⑤ 年代別の交通事故による救急搬送人数の推移

0歳から14歳は減少しているものの、15歳から64歳及び65歳以上では増加と減少を繰り返しています。全体としては1割ほど減少しています。

【図表 4-13】 出典：救急搬送データ



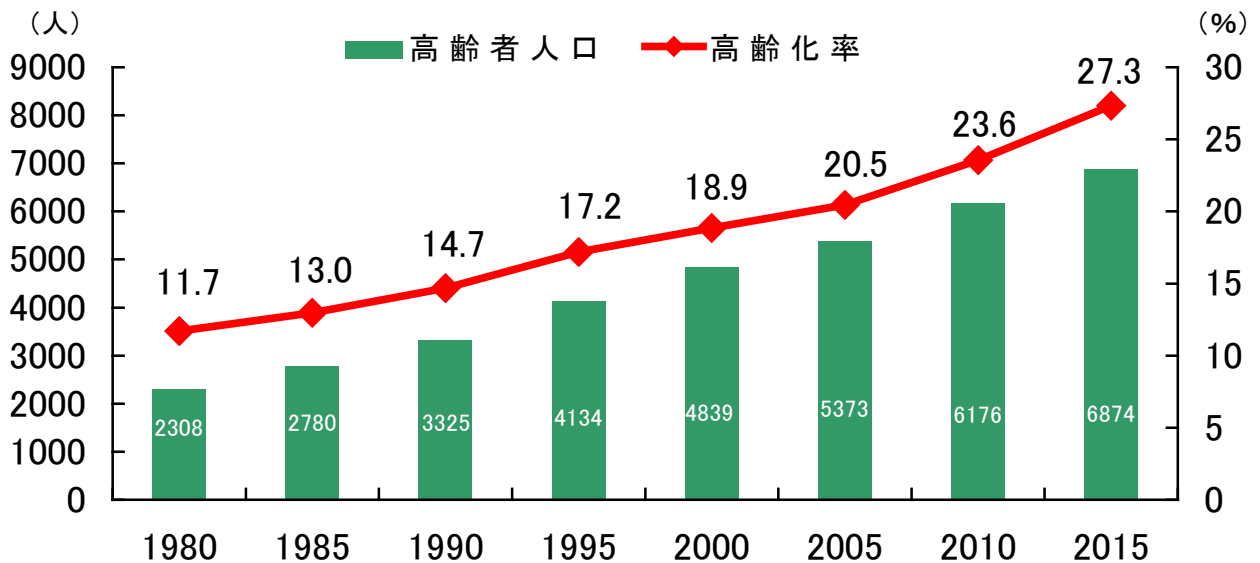
■ 高齢者の安全

高齢者の安全対策のキーは、『転倒・転落』です。転倒・転落による骨折予防がポイントです。

① 高齢者人口と高齢化率の推移

箕輪町の高齢者人口は、年々増加しており、人口に占める高齢者の割合も高まってきています。

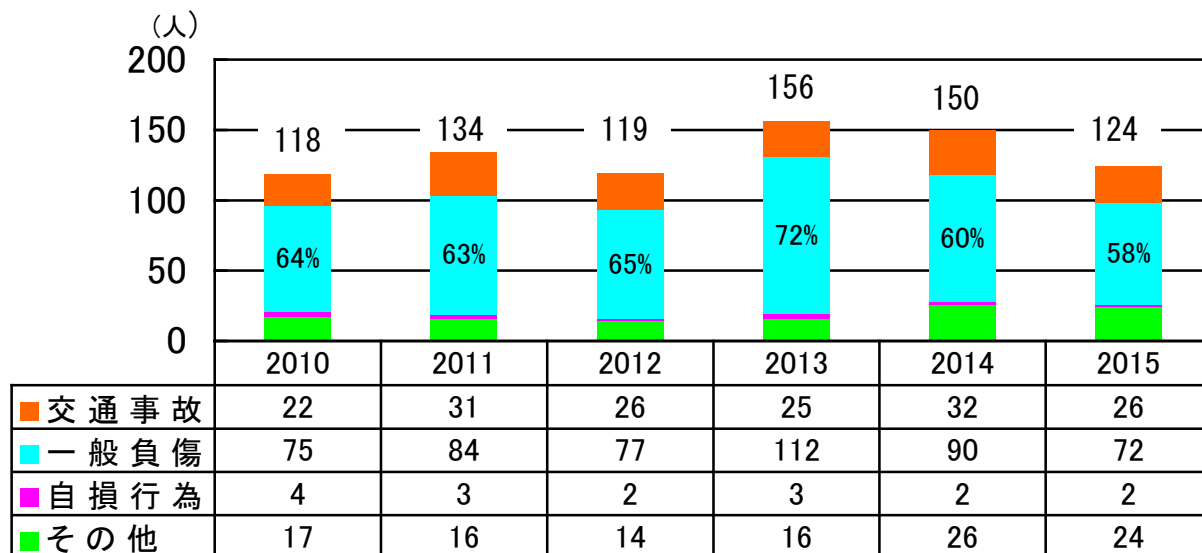
【図表 4-14】 出典：国勢調査



② 高齢者の外的要因による原因別救急搬送人数の推移（2010～2015）

高齢者の救急搬送の原因は、「一般負傷」が最も多く、5割以上を占めています。なお「一般負傷」の総件数510件うち、68%、347件が転倒・転落によるものです。

【図表 4-15】 出典：救急搬送データ

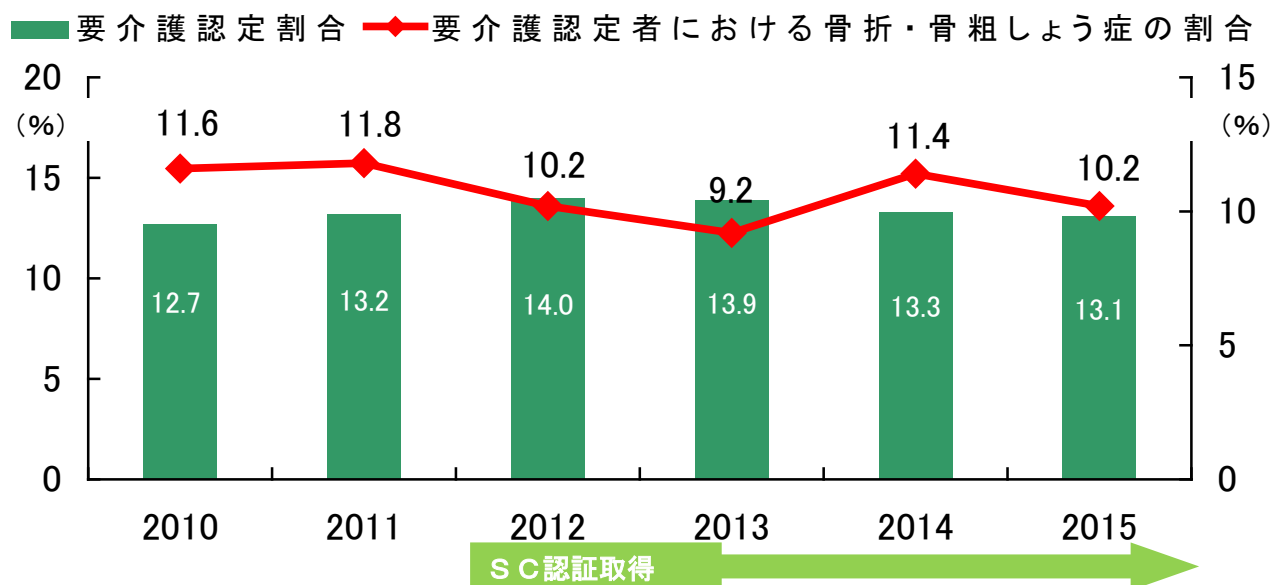


SC認証取得 →

③ 骨折、骨粗しょう症による要介護認定者の状況

要介護認定割合に占める骨折、骨粗しょう症の割合は、2014年には一時増加しましたが、その後再び減少傾向にあります。

【図表 4-16】 出典：地域包括支援センター



SC認証取得 →

※要介護認定は、介護保険によるサービスを利用する際に必要な、介護度を認定するもの

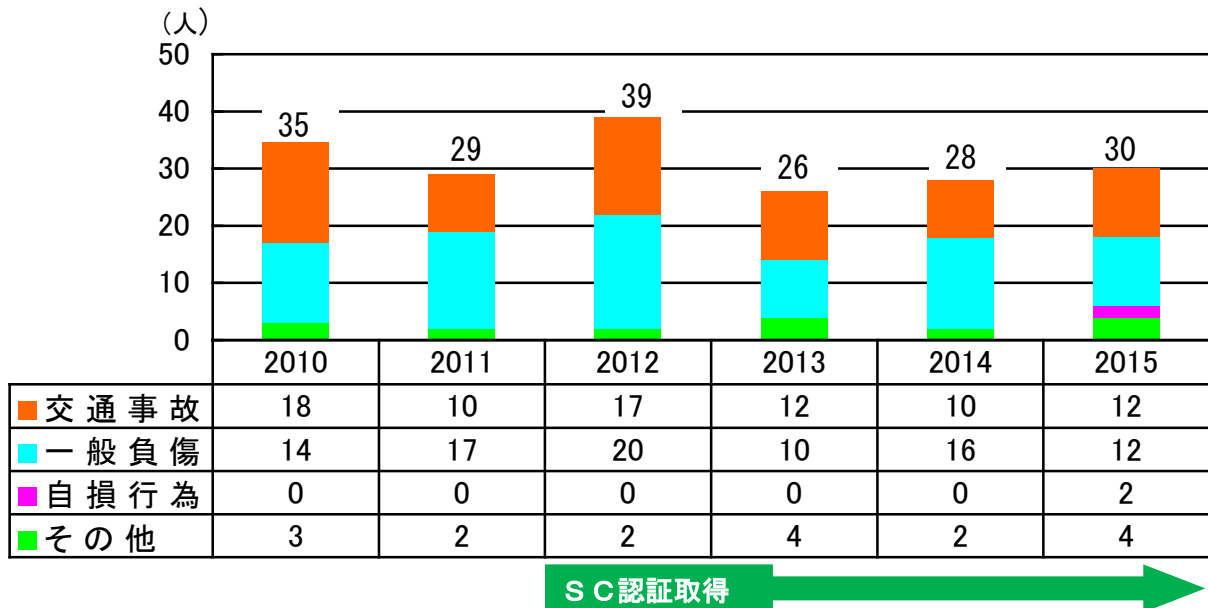
■ 子どもの安全

子どもの安全対策は、特に0～12歳までの子どもへの安全対策がポイントです。

① 子どもの外的要因による原因別救急搬送人数の推移（2010～2015）

0～19歳の救急搬送人数は、全体的には増減を繰り返していますが、件数が少ないため、明確な傾向は見られません。

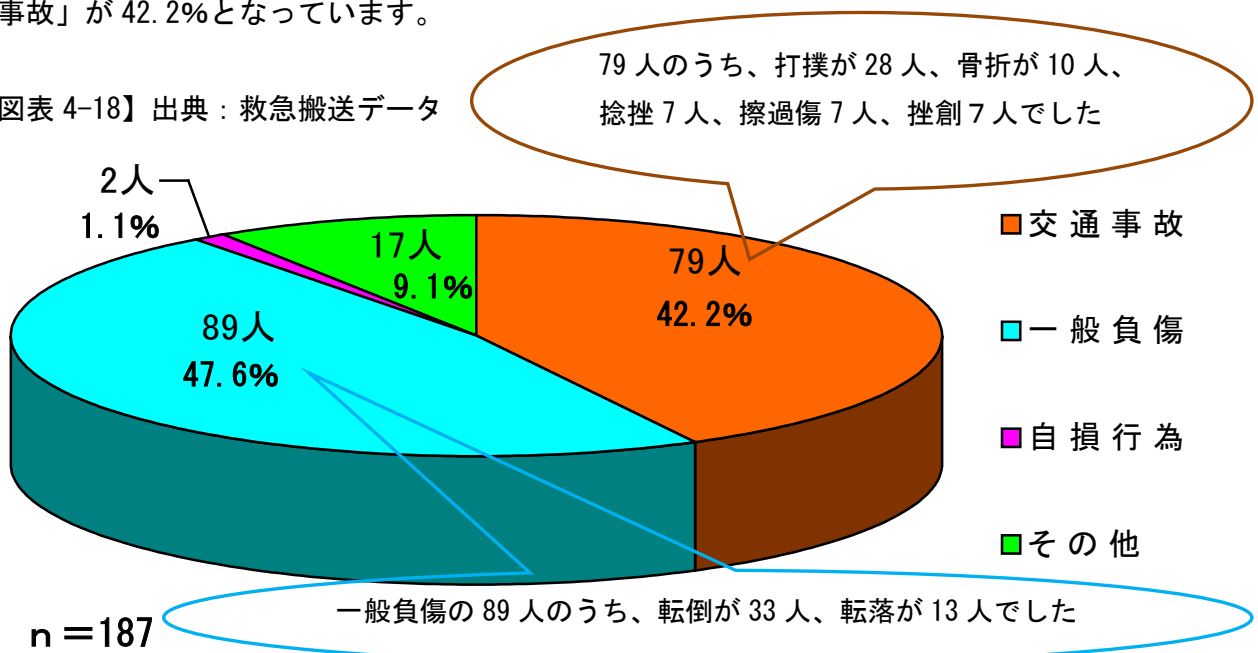
【図表 4-17】 出典：救急搬送データ



② 子どもの外的要因による原因別救急搬送人数の割合（2010～2015の合計）

2010年から2015年までの子どもの救急搬送の原因は、「一般負傷」が47.6%を占め、次いで、「交通事故」が42.2%となっています。

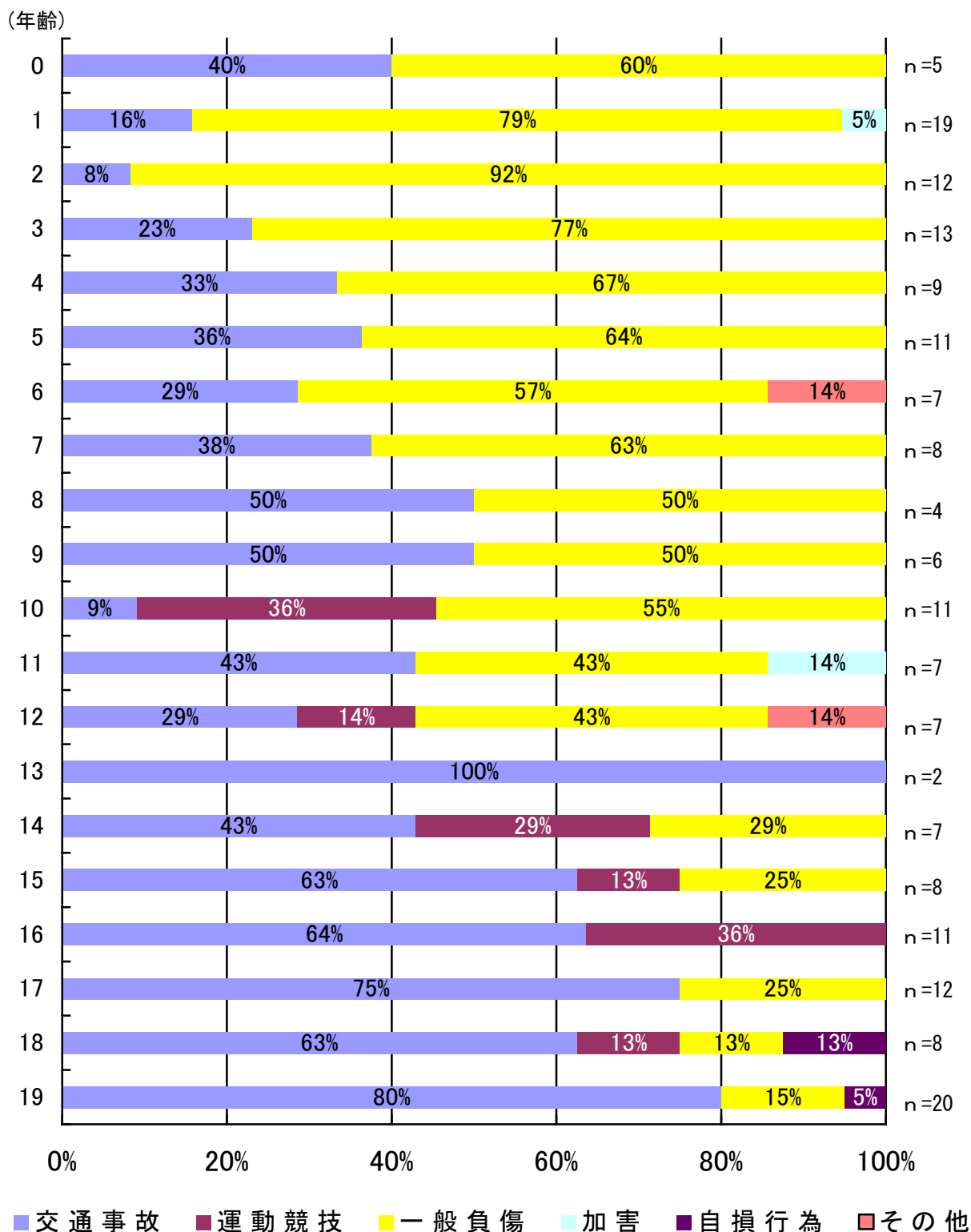
【図表 4-18】 出典：救急搬送データ



③ 子どもの年齢層別外傷原因の推移（2010～2015）

件数が少ないため、一概には言えませんが、年齢が上がるにつれ、「交通事故」が占める割合が増加し、逆に「一般負傷」は減少していく傾向が見られます。

【図表 4-19】 出典：救急搬送データ



■ 暮らしの安全

暮らしの安全では、他の対策委員会ではカバーできない重要な、防犯、災害などといった項目を担っています。

① 時間帯別声かけ事案発生件数の推移（2006～2015）

2006年から2014年までを見ると、少ないながらも毎年発生しています。2015年の急増は、同一犯が複数回行ったものと判明しています。

【図表 4-20】 出典：伊那警察署生活安全課 (件数)

SC認証取得 

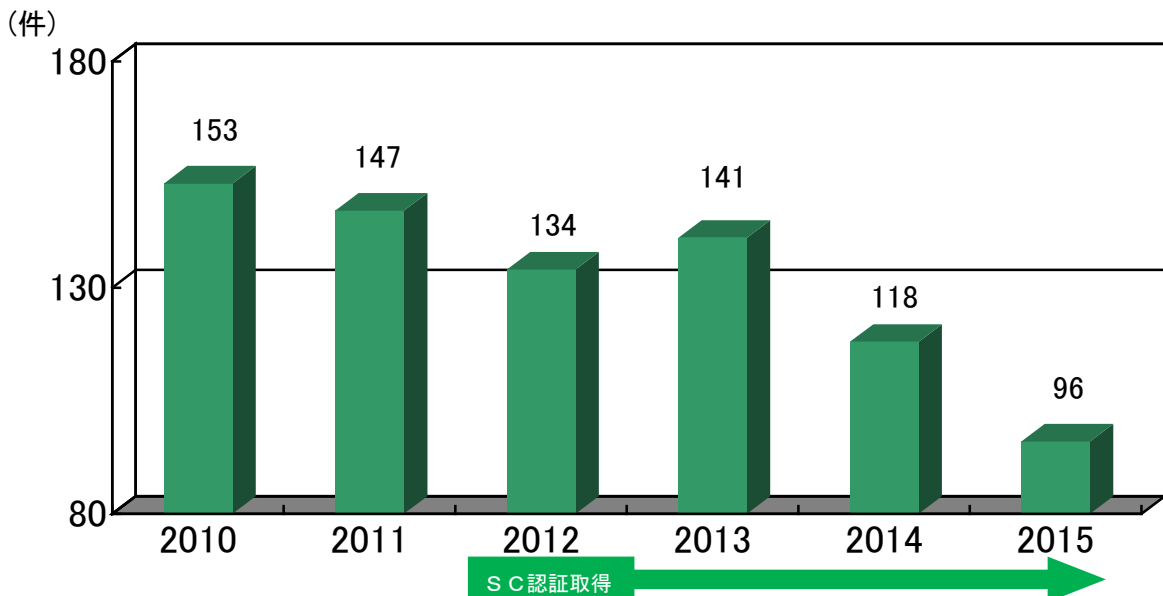
区別	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	合計
5～8 時台	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3
9～14 時台	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
15～16 時台	1	0	0	1	1	0	0	0	0	4	7
17～18 時台	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3	6
19 時以降	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
合計	1	2	1	2	2	1	1	1	1	9	21

※2015年の急増は、強制わいせつで逮捕された被疑者の余罪数件あり

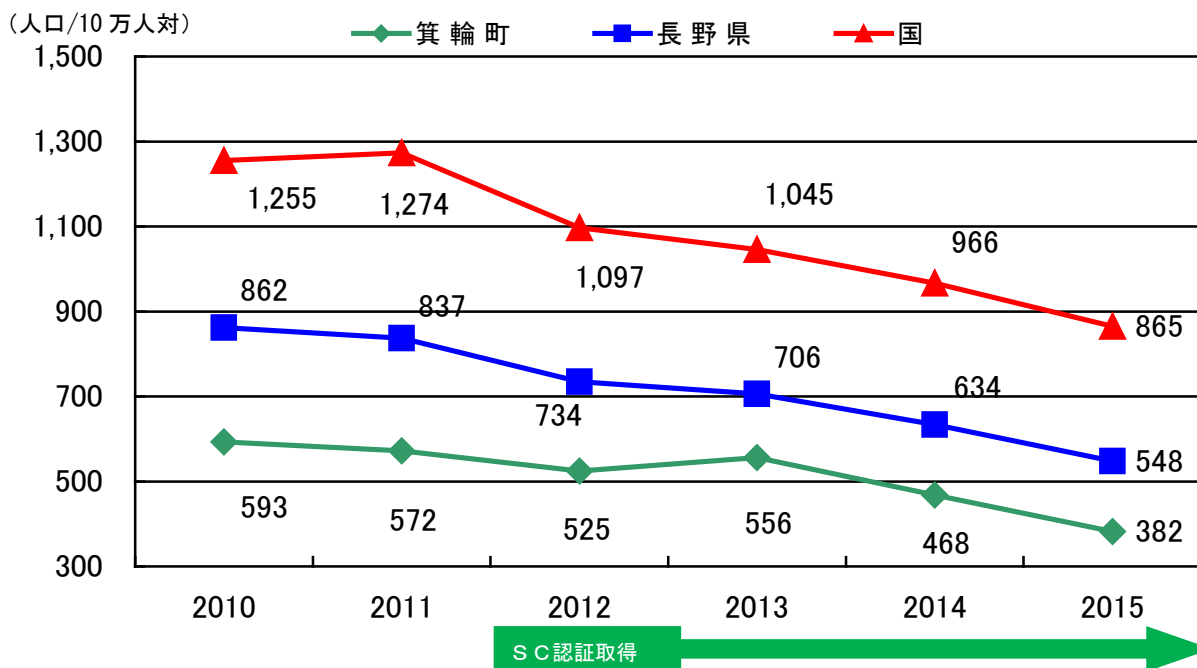
② 刑法犯認知件数の推移（2010～2015）

刑法犯認知件数は、年々減少しています。国、長野県も箕輪町と同様の傾向にあります。

【図表 4-21】 出典：警察統計



【図表 4-22】 出典：警察統計



③ 独居世帯における体感治安の状況

「箕輪町での暮らしは、総じて安心だと感じるか」をアンケートにより調査したところ、2013年は「どちらかと言えば感じない」「まったく感じない」と回答した方は17.2%でしたが、2015年は3.7%にまで減少しています。

【図表 4-23】 出典：2013, 2015 箕輪町セーフコミュニティアンケート

Q 箕輪町での暮らしは、安心だと感じますか？

区分	2013 n=35	2015 n=54
そう感じる	8人 22.9%	17人 31.5%
どちらかと言えばそう感じる	16人 45.7%	20人 37.0%
どちらとも言えない	5人 14.3%	12人 22.2%
どちらかと言えば感じない	1人 2.9%	0人 0%
まったく感じない	5人 14.3%	2人 3.7%
未回答	0人 0%	3人 5.6%

■ 自殺予防

自殺予防対策は、特に 20～60 歳代の男性への対策がポイントになっています。

① 国・県・町の自殺者数の推移（2009～2015）

自殺者数は、国、長野県とも年々減少傾向にあります。箕輪町は、件数が少ないため、明確な分析は難しいですが、SC認証取得前の 2009～2011 年の 3 か年の平均値 6.3 人と、2013 年からの 3 か年の平均値 5.0 人を比較すると、1.3 人減少しています。

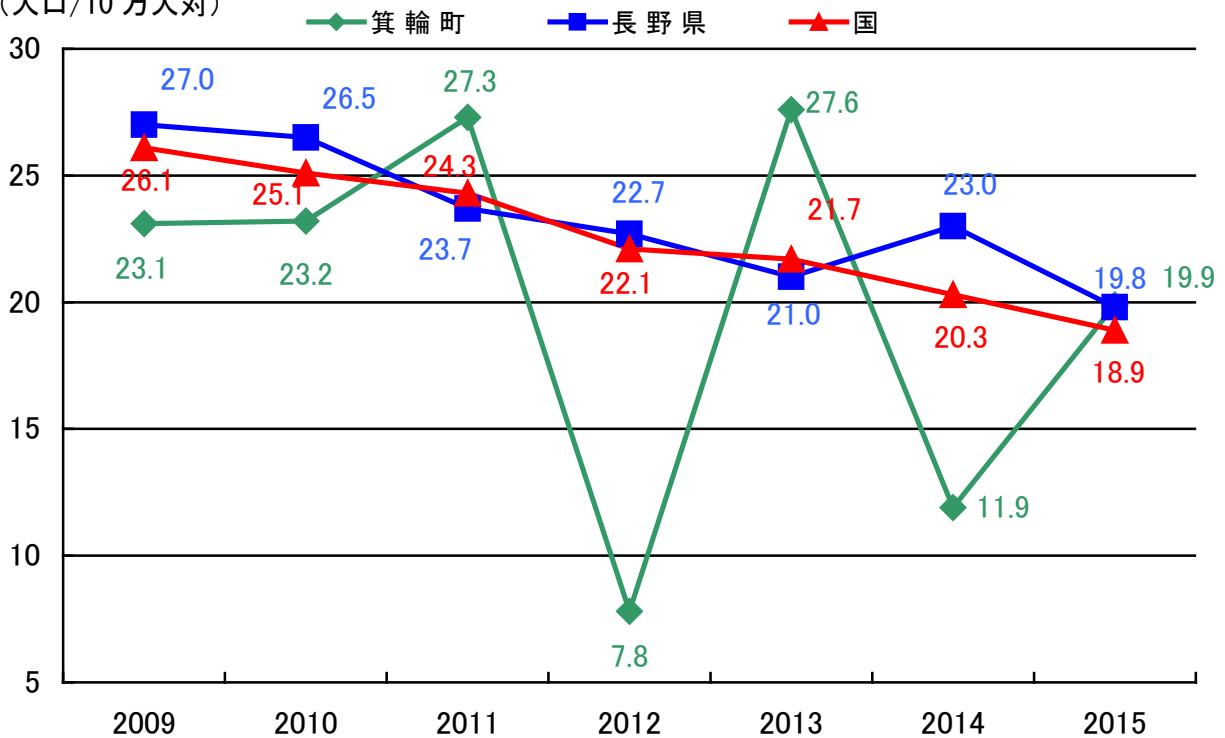
【図表 4-24】 出典：警察統計、死亡統計

単位：人	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
箕輪町	6	6	7	2	7	3	5
長野県	573	562	501	479	439	480	415
国	32,845	31,690	30,651	27,858	27,283	25,427	24,025

SC認証取得

【図表 4-25】 出典：警察統計、死亡統計

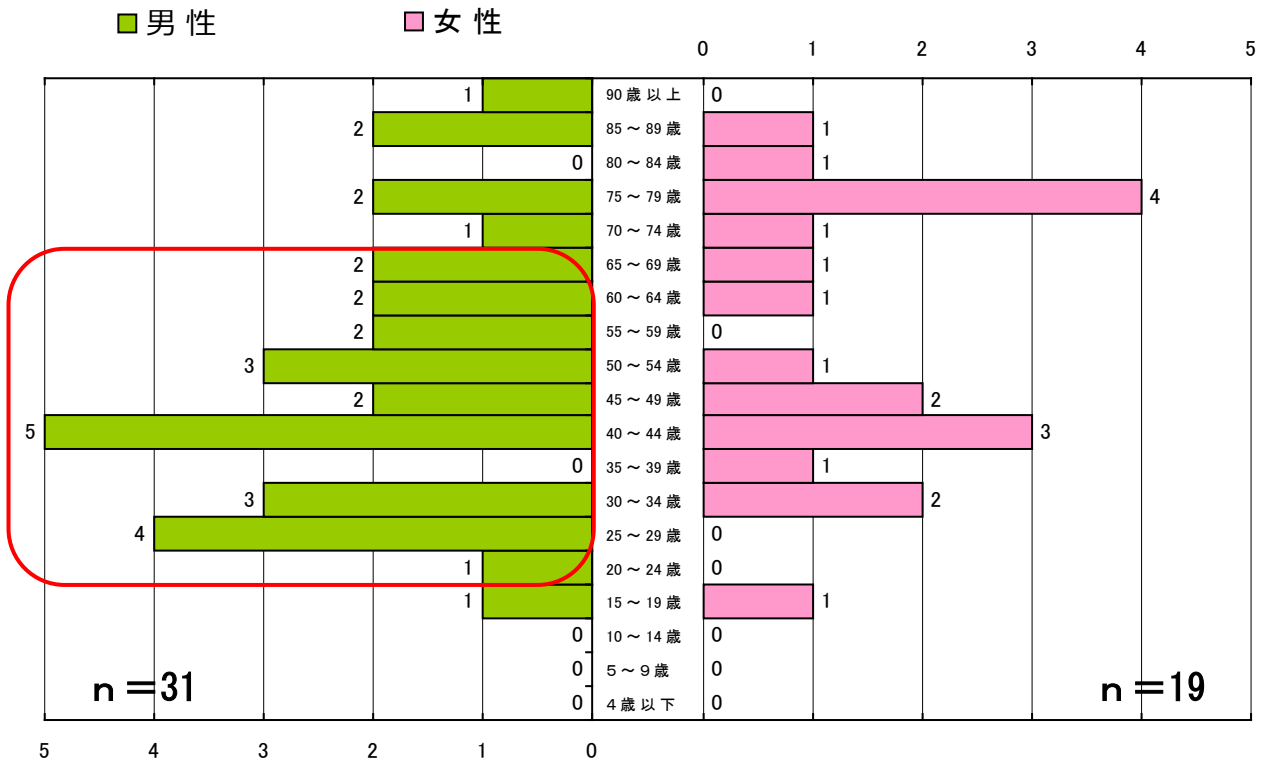
(人口/10 万人対)



② 自損行為による男女別世代別救急搬送の状況（2010～2015）

62%を男性が占めており、中でも20～60歳代の男性が全体の48%を占めています。

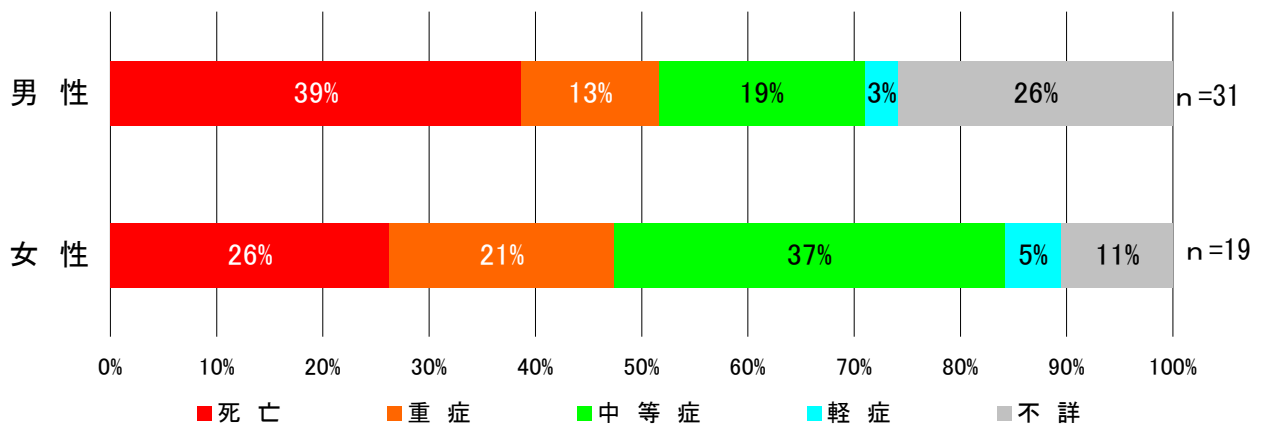
【図表 4-26】 出典：救急搬送データ



③ 自損行為による男女別程度別救急搬送の状況（2010～2015）

男性は自損行為にいたった時、死亡する割合が高いことが見てとれます。

【図表 4-27】 出典：救急搬送データ



Supplement 5

(補足資料 5)

Overview of the Demographic Structure
of the Community

(人口動態構造)

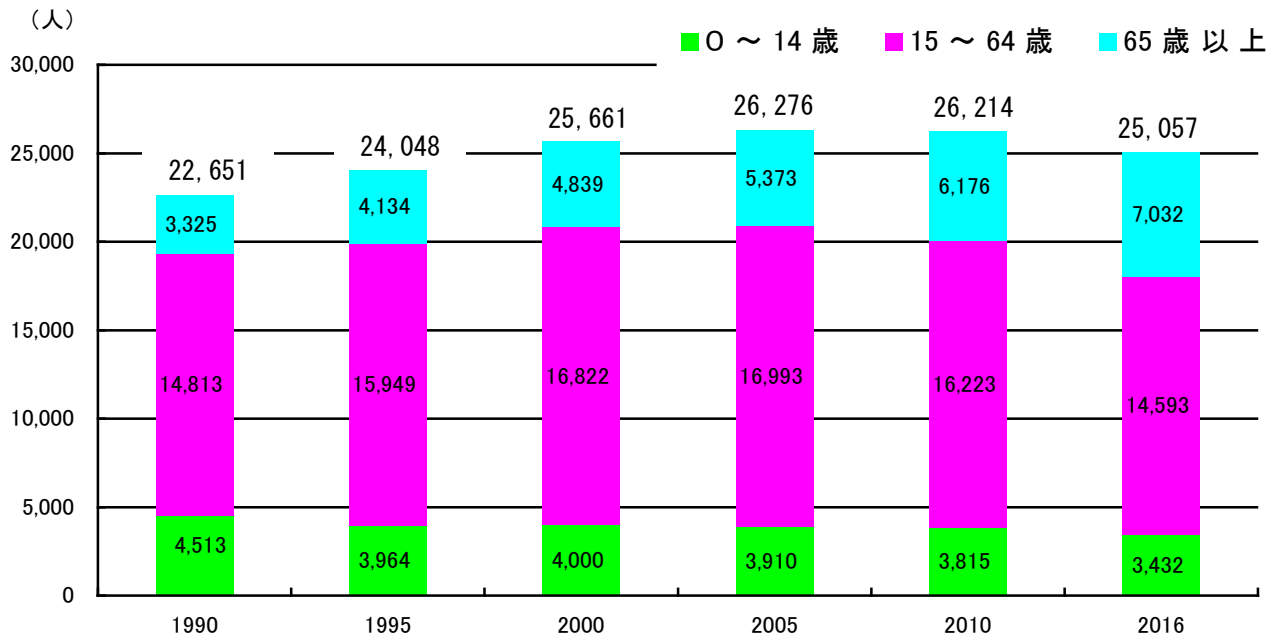


[1] 人口の推移及び動態

■ 人口3区分の推移

2005年の26,276人をピークに、人口減少に転じました。特に0～14歳の人口は減少傾向にあり、逆に65歳以上の人口は増加傾向と、少子高齢化が進んでいます。

【図表 5-1】 出典：国勢調査（※ただし、2016年については住民基本台帳から集計）



■ 人口動態

出生数が死亡数を下回る自然減の状況が続き、転出者が転入者上回る社会減の状況にあります。

【図表 5-2】 出典：住民基本台帳年報

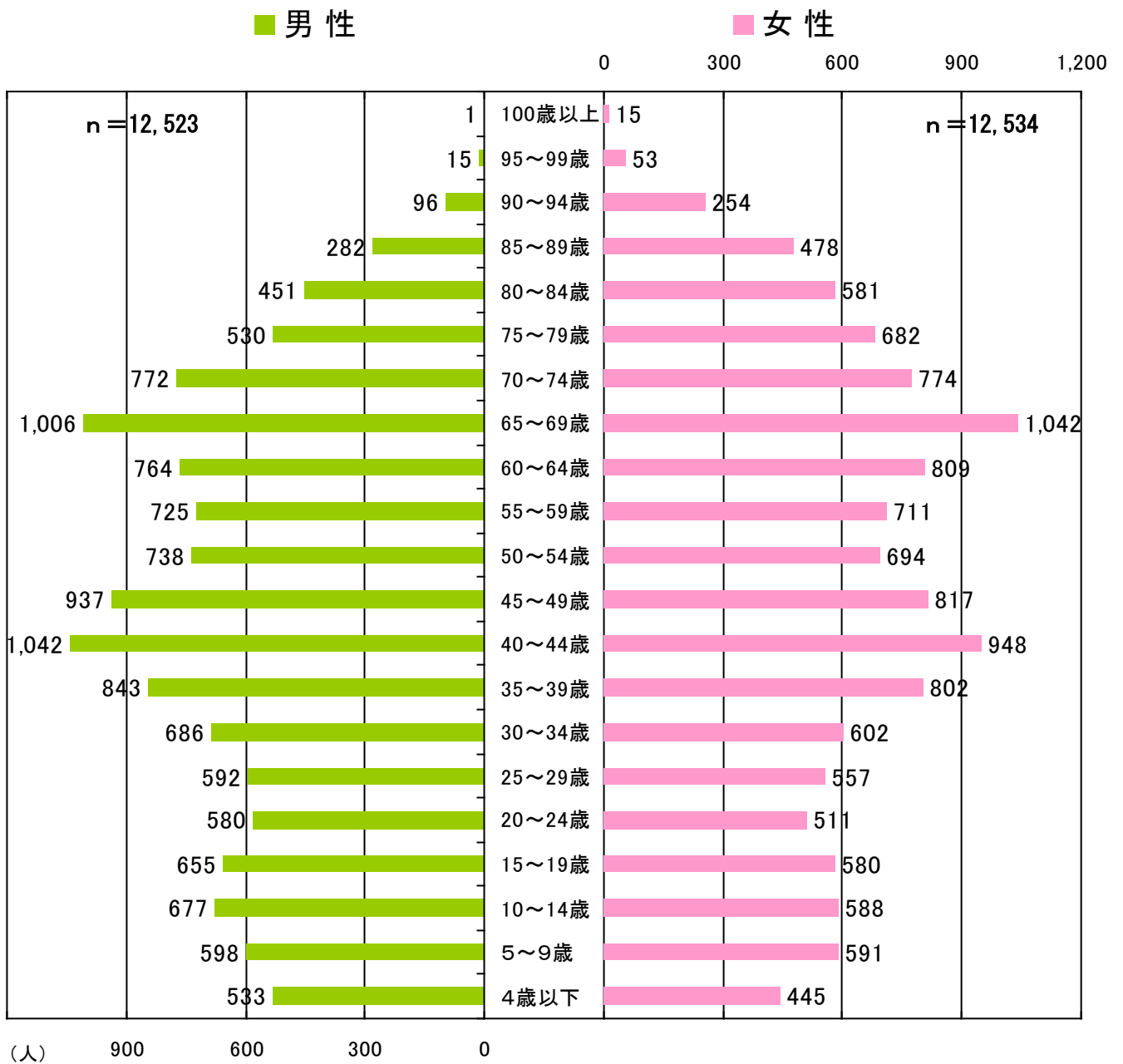
年	自然増加 (a-b)	出生 (a)	死亡 (b)	社会増加 (c-d)	転入 (c)	転出 (d)
2008	△1	204	205	13	1,039	1,026
2009	10	248	238	△99	771	883
2010	△53	227	280	112	860	748
2011	△52	218	270	△2	827	829
2012	△52	196	248	△91	850	941
2013	△71	194	265	△74	753	827
2014	△86	188	274	63	987	924
2015	△67	198	265	△28	972	1,000

[2] 人口分布

■ 人口分布

箕輪町の人口分布は、全国的な傾向と同様に、60歳から74歳及び35歳から49歳の人口が多くなっています。

【図表 5-3】 出典：住民基本台帳 （2016年10月1日現在）

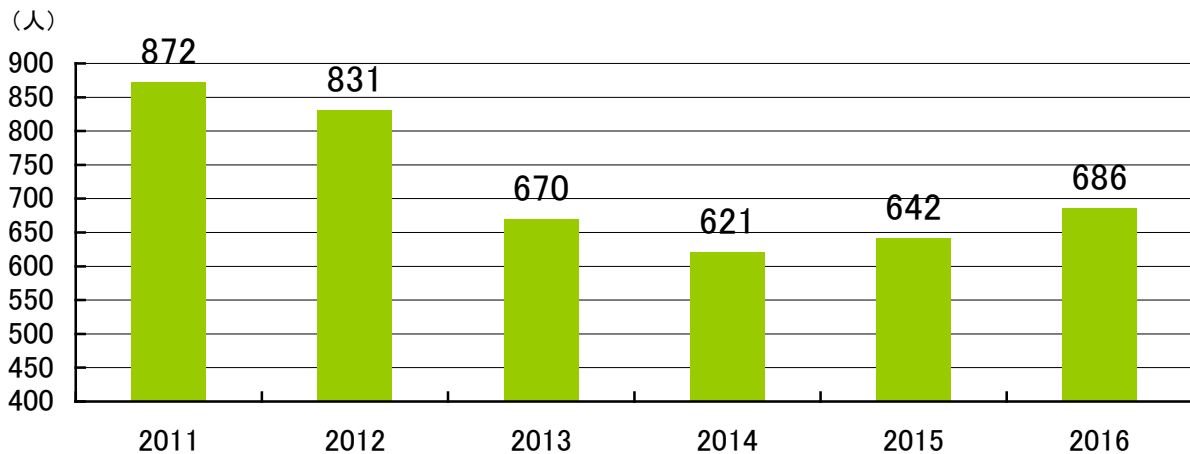


[3] 外国人住民

■ 外国人住民登録者の推移

外国人住民登録者数は、減少傾向にありましたが、2015年以降増加しています。

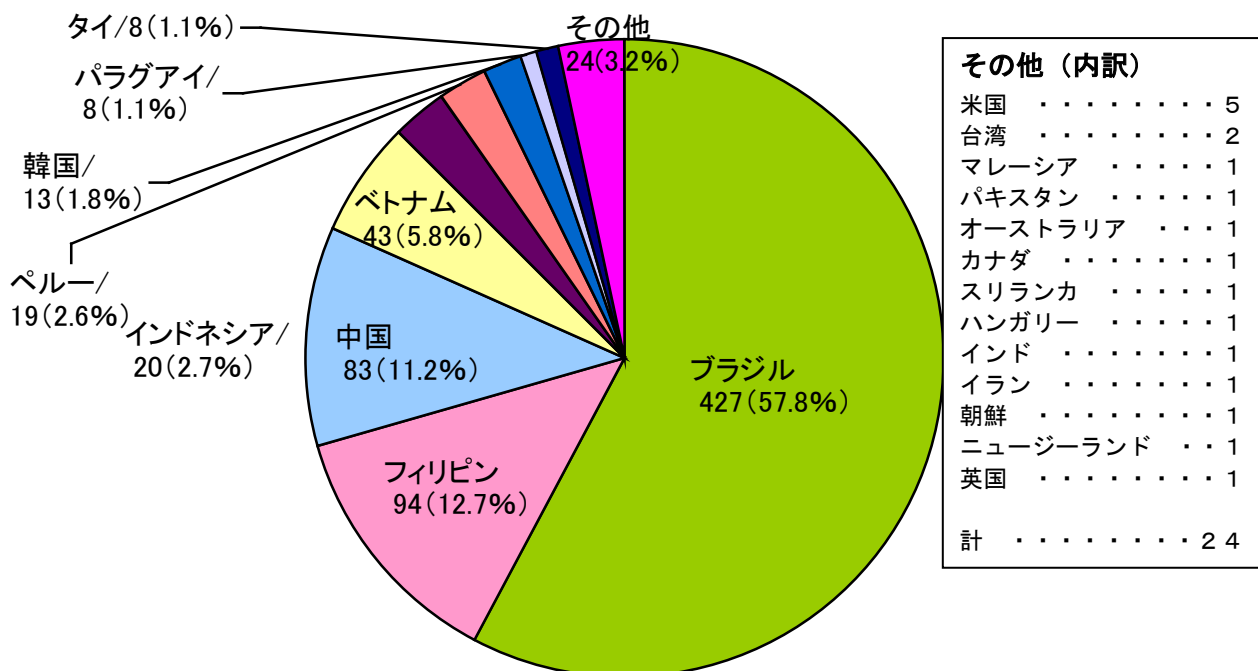
【図表 5-4】 出典：住民基本台帳（2011～2016年の推移）



■ 国籍別内訳

箕輪町の外国人住民登録者の国籍は、ブラジル人が最も多い427人（62.2%）で、次いでフィリピン人が94人（13.7%）、中国人が83人（12.1%）となっています。

【図表 5-5】 出典：住民基本台帳（2016年10月1日現在）

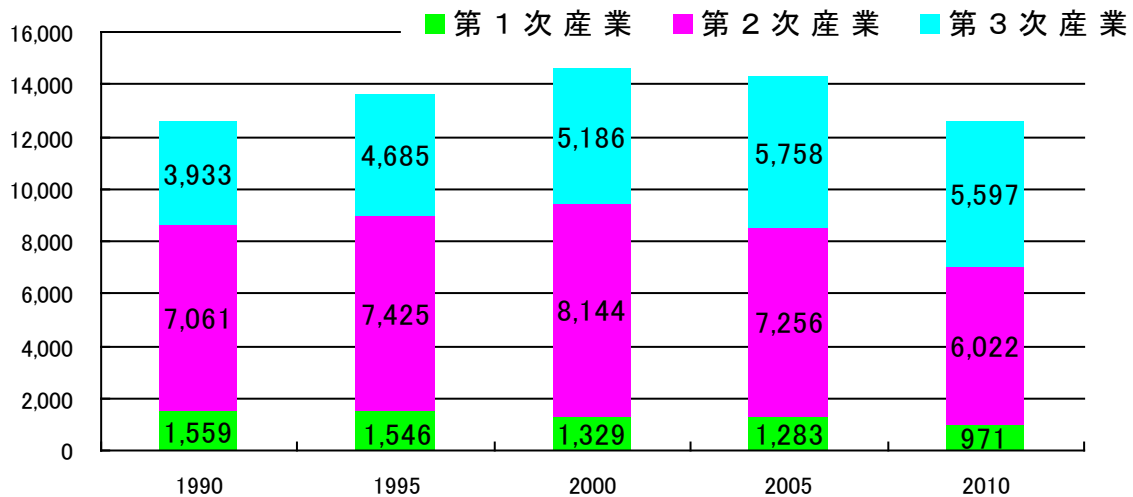


[4] 産業別状況

■ 産業別就業人口の推移

工業などの第2次産業及び商業・サービス業などの第3次産業は、増加傾向にありますが、農業・林業などの第1次産業は、減少し続けています。

【図表 5-6】 出典：国勢調査



■ 製造品出荷額

長野県にある全77市町村における2014年の製造品出荷額を順位別にするると、箕輪町は12位に位置し、町に限ると坂城町に次いで2番目に多くなっています。

【図表 5-7】 出典：工業統計

順位	市町村名	2014年 製造品出荷額等	2014年人口	一人当たり出荷額
1位	塩尻市	59,716,000万円	66,918人	約892万円
2位	松本市	48,387,158万円	242,096人	約200万円
11位	坂城町	18,318,658万円	14,949人	約1,225万円
12位	箕輪町	15,606,869万円	25,656人	約608万円
13位	伊那市	13,776,263万円	68,932人	約200万円
22位	大町市	7,779,298万円	28,303人	約275万円
23位	南箕輪村	6,897,633万円	15,050人	約458万円

※人口は、2014年1月1日現在数

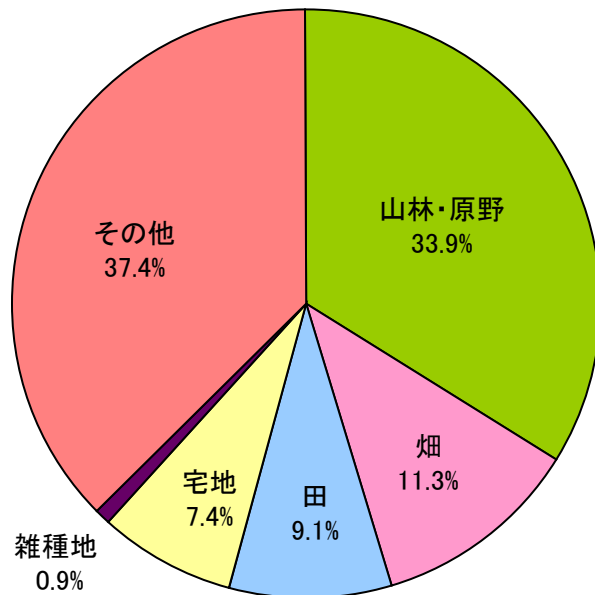
[5] 地目別面積

■ 地目別面積に対する割合

箕輪町の面積は、約 86 km²で、約 34%が山林・原野、約 20%が田・畑、宅地は 7.4%と、緑豊かな田園工業都市となっています。

【図表 5-8】 出典：土地に関する概要調査（2015 年 1 月 1 日現在）

種類別	面積（k m ² ）
山 林	23.95
原 野	5.18
畑	9.63
田	7.80
宅 地	6.40
雑種地	0.85
その他	32.10
計	85.91



【箕輪町の全景】

Supplement 6

(補足資料 6)

Scheme to Evaluate Programs and the Programs to Document the Frequency and the Causes of Injuries
(プログラムを評価する仕組み及び外傷の
頻度や原因などを記録)



[1] プログラムの進行管理

箕輪町のセーフコミュニティプログラムは、以下のとおり、関係する組織が各々の役割に則り、進行管理をしています。

I 安全診断

【外傷調査委員会、SC対策委員会】⇒箕輪町SC推進協議会へ報告
統計資料や社会調査の結果等の分析により、箕輪町の外傷リスクを把握

II 課題抽出

【外傷調査委員会、SC対策委員会】⇒箕輪町SC推進協議会へ報告
安全診断から得たデータを分析し、箕輪町の課題を抽出

III 対策検討・企画

【SC対策委員会】
箕輪町の課題に応じた対策を検討し、企画する。

IV 対策実施

【SC対策委員会】
箕輪町の課題に応じた対策を実施

V 活動評価

【SC対策委員会、外傷調査委員会】⇒箕輪町SC推進協議会へ報告
活動の実績を評価

VI 短期評価

【SC対策委員会】⇒外傷調査委員会と箕輪町SC推進協議会へ報告
認識や知識の変化を評価

VII 中期評価

【SC対策委員会】⇒外傷調査委員会と箕輪町SC推進協議会へ報告
態度や行動の変化を評価

VIII 長期評価

【外傷調査委員会】⇒箕輪町SC推進協議会へ報告
状態や状況の変化を評価

IX 総合評価

【箕輪町SC推進協議会】
各評価結果に基づく総合評価を実施し、改善等を指示

X 外部アセスメント

【日本セーフコミュニティ推進機構】
上記のI～IXについての報告を受け、プログラムの進行管理状況や個々のプログラムの実施状況について評価を実施

[2] 収集データ

■ 収集しているデータ

箕輪町では、次の統計資料等を収集しています。

【図表 6-1】 出典：総務課SC推進室

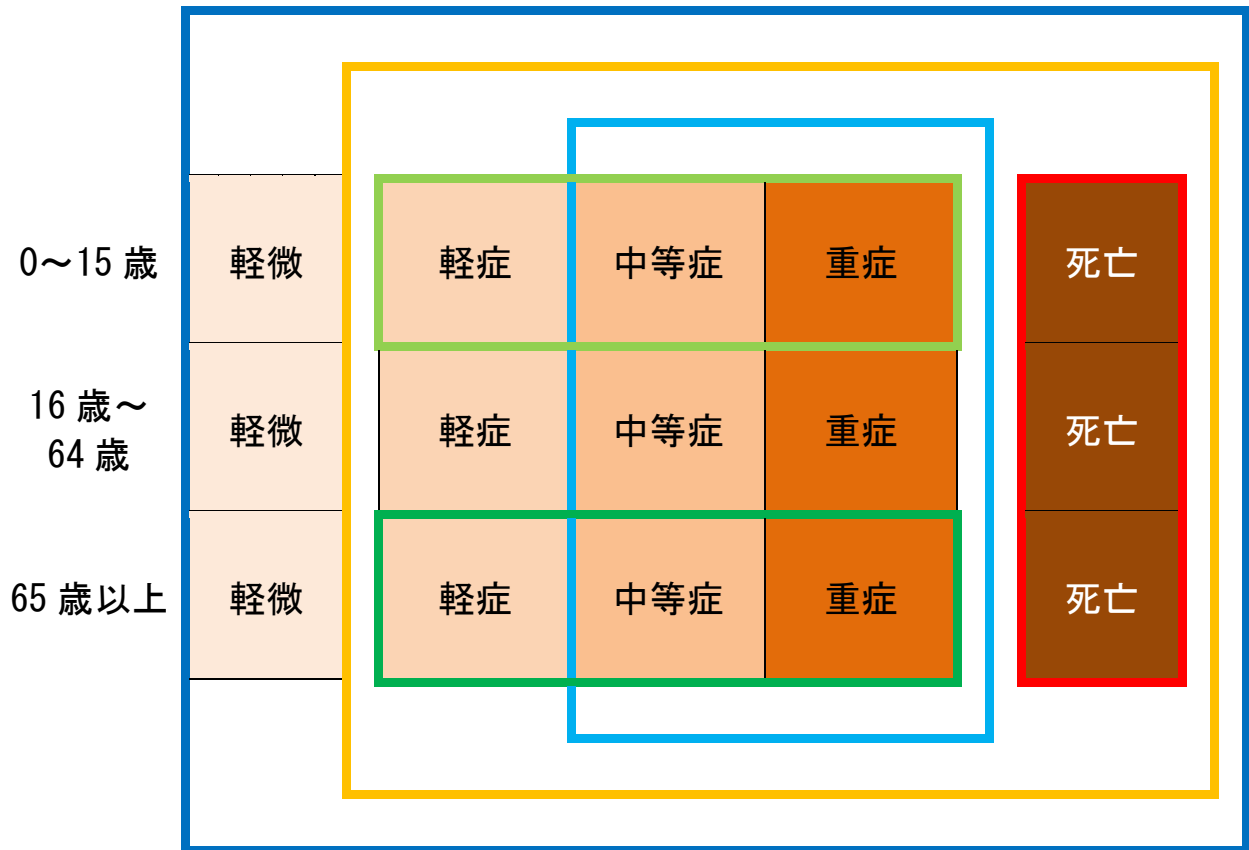
NO	統計等名称	内 容		
		収集頻度	収集先	対 象
①	死亡統計	町に届出された死亡届から収集した情報		
		毎年	町健康推進課	全町民
②	人口動態統計	外因による死亡に関する情報		
		毎年	厚生労働省	全町民
③	救急搬送データ	事故やケガによる救急搬送の情報		
		毎年	箕輪消防署	全町民
④	警察統計	交通事故、犯罪、自殺に関する情報		
		毎年	伊那警察署	全町民
⑤	自殺統計原票データ	自殺者に関する情報		
		毎年	厚生労働省	全町民
⑥	災害給付制度データ	保育園、小中学校における事故やケガに関する情報		
		毎年	日本スポーツ振興センター	町内保小中学生
⑦	介護保険事業年報等	介護保険に関する情報		
		毎年	町地域包括支援センター	介護保険利用者
⑧	病院データ	伊那中央病院における外傷による入院患者の情報		
		毎年	組合立 伊那中央病院	全町民
⑨	住民基本台帳データ	人口、世帯数等に関する情報		
		毎年	町住民環境課	全町民
⑩	SCアンケート (追加アンケート含)	体感治安や賛否など、SCに関する情報		
		2年に1回	町総務課SC推進室	全町民
⑪	住民満足度調査	町施策に対する満足度等についての情報		
		2年に1回	町企画振興課	全町民
⑫	転出入者アンケート	転出者の施策評価と転入者の施策期待についての情報		
		随時	町住民環境課	転出入者

[3] 収集するデータがカバーする領域

箕輪町は、様々なデータを収集していますが、1つのデータではカバーしきれない領域については、複数のデータを用いることによりカバーしています。カバーしている領域は、次のとおりです。

■ データがカバーする領域

【図表 6-2】



①死亡統計 ②人口動態統計 ⑤自殺統計原票データ

③救急搬送データ ④警察統計

⑥災害給付制度データ

⑦介護保険事業年報等

⑧病院データ

⑩S Cアンケート（追加アンケートや各種アンケート調査含む）

Supplement 7

(補足資料 7)

Comparison with Economic

(経済面からの比較)

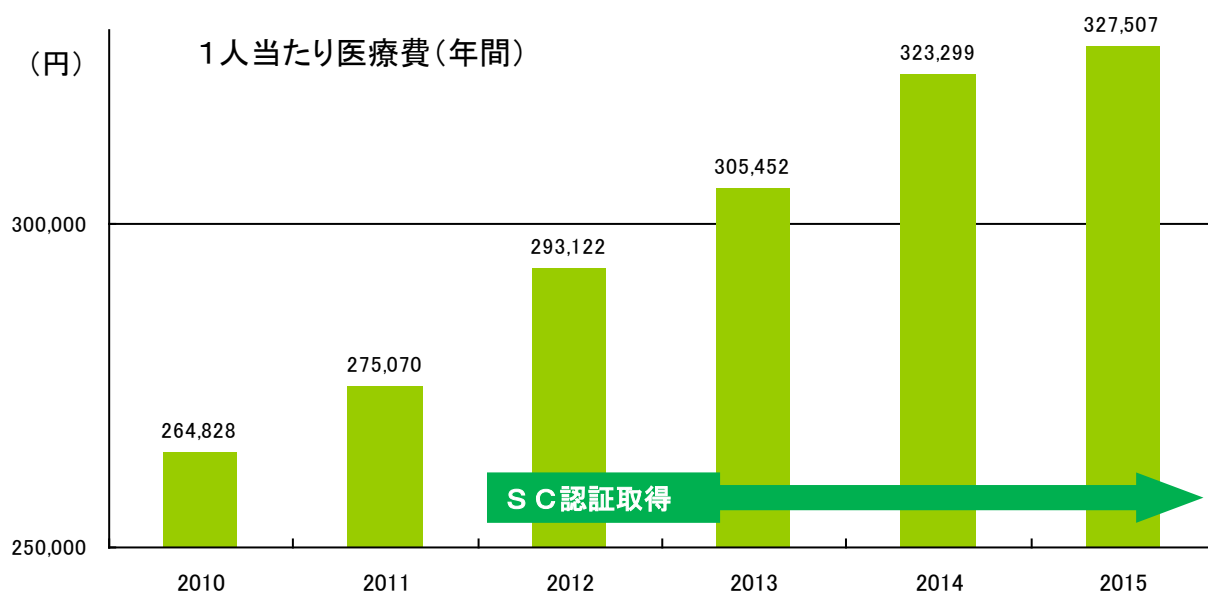


箕輪町では、高齢化の進展により、高齢者の外傷に増加傾向が見られることから、医療費や介護費用の増加を抑制することをSC導入の狙いの一つとしました。合わせて、SC導入をきっかけに、保育園や小中学校管理下におけるケガの発生にともなう災害共済給付金や介護予防事業に係る経費に着目するようになり、経済面からの比較を行っています。

[1] 1人当たり医療費の推移

箕輪町の国民健康保険における、1年間にかかる一人当たり医療費は増加傾向にあります。

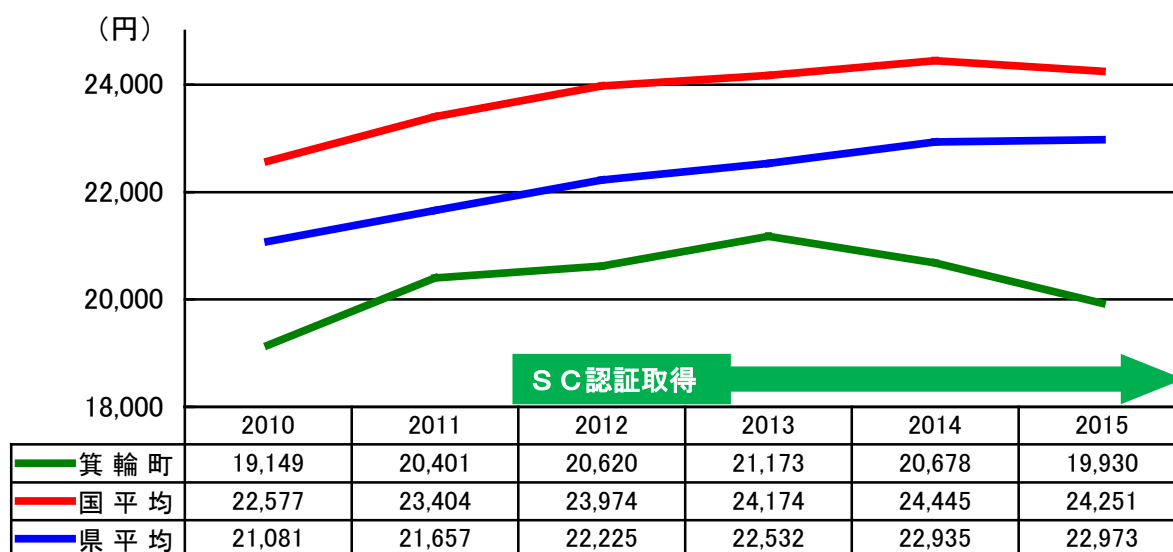
【図表 7-1】 出典：健康推進課



[2] 1人当たり介護費用額の推移

箕輪町での介護保険における、1ヶ月にかかる一人当たり介護費用額は減少傾向にあります。

【図表 7-2】 出典：福祉課 地域包括支援センター



[3] 保育園、小学校、中学校における災害共済給付金の推移

箕輪町の保育園、小中学校における、管理下中の外傷発生にともなう災害給付金の推移については次のとおりです。

【図表 7-3】 出典：子ども未来課及び学校教育課

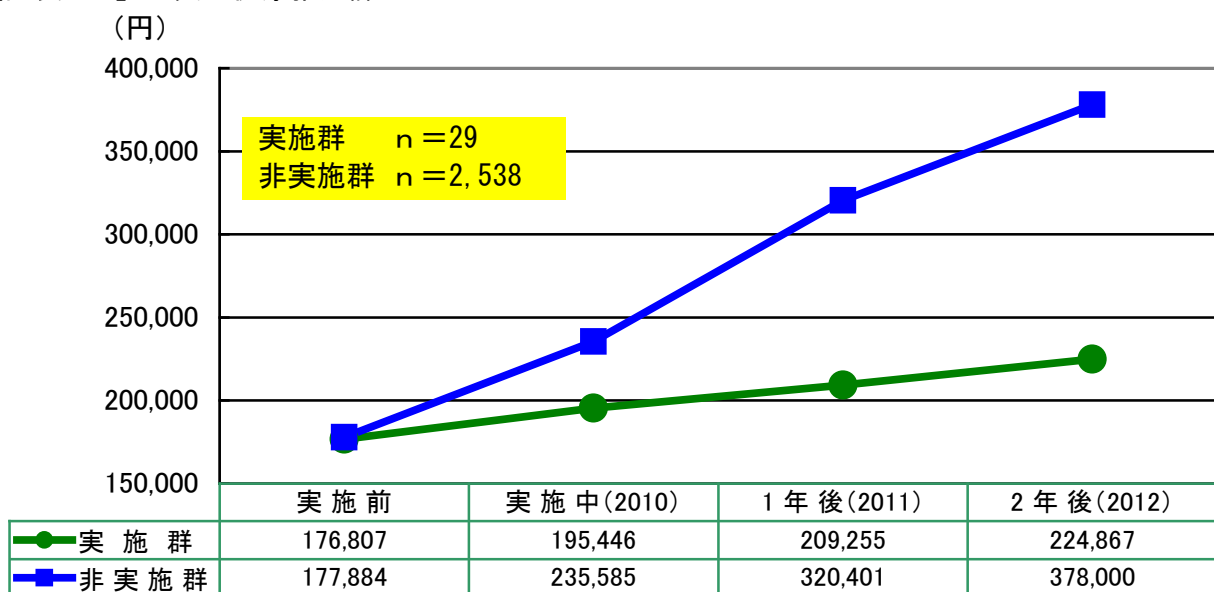
	児童数		件数		共済給付額(円)		1件あたり給付額(円)		
	保育園	小中学校	保育園	小中学校	保育園	小中学校	保育園	小中学校	
2010	818	2,245	19	166	172,140	1,009,356	9,060	6,080	
2011	831	2,264	27	141	90,176	1,540,026	3,340	10,922	
SC 認証 取得 ↓	2012	892	2,251	15	151	49,756	1,572,950	3,317	10,417
	2013	861	2,302	23	161	79,896	1,304,403	3,474	8,102
	2014	811	2,264	32	124	228,116	875,350	7,129	7,059
	2015	833	2,200	29	142	320,284	1,284,020	11,044	9,042

[4] みのわ健康アカデミー（健康づくり教室）における医療費の推移比較

箕輪町で実施している『みのわ健康アカデミー』は、40歳～74歳を対象に開催される、1年間を通じての健康づくり支援教室です。週1回のマシントレーニングを行うことにより、熟年の健康増進、介護予防や生活習慣病予防を目指しています。

■ みのわ健康アカデミー 6期生に係る1人あたり医療費（年間）の推移比較

【図表 7-4】 出典：健康推進課



※実施群及び非実施群とも、箕輪町国民健康保険加入者のみを対象に2014年に調査した結果です。

[5] 補助金の積極的な活用

箕輪町は、ＳＣ活動の推進にあたり、国や県等の補助金制度を積極的に活用してきました。その活用状況については以下のとおりです。

■ 活用補助金一覧

【図表 7-5】 出典：総務課ＳＣ推進室

	補助金活用内容	年	補助金額	補助制度名
1	ＳＣフォーラム、研修会、啓発物品等	2010	1,167,853 円	長野県元気づくり支援金
2	ＳＣフォーラム、研修会、チラシ印刷等	2011	1,039,000 円	長野県元気づくり支援金
3	ＳＣフォーラム	2011	705,000 円	国自殺対策緊急強化事業補助金
4	第 6 回アジア会議(3 自治体共催)開催経費	2012	1,066,667 円	自治体国際化協会助成金
5	ＫＹＴ(危険予知トレーニング)教材作成費	2016	700,000 円 (見込み額)	長野県元気づくり支援金

[6] セーフコミュニティ活動推進補助金

箕輪町では、「地区ＳＣ推進協議会」が自主的・主体的に企画・実行するＳＣ活動に対し、経済面から支援するため、2015 年 10 月に「セーフコミュニティ活動推進補助金」制度を創設しました。

これは、年間 20 万円、累計 100 万円を上限として、安全・安心に関する地域の課題解決に広く活用できるよう、自由度を高くし、使い勝手の良い制度にしました。

この補助金の創設により、各地区のＳＣ活動の主体性、積極性が高まり、さらにはＳＣ活動をより計画的、継続的に推進できるようになりました。

■ ＳＣ活動推進補助金の活用状況

【図表 7-6】 出典：総務課ＳＣ推進室

年	補助先	補助金額	活用内容
2015	ＫＳＣ(北小河内地区)	150,970 円	救急医療情報キット「命のカプセル」購入、注意喚起看板作成費、印刷代等
2015	ＴＡＡ(富田地区)	141,098 円	蛍光タスキ購入、防犯ブザー購入、ＬＥＤ携帯灯購入等
2016	ＫＳＣ(北小河内地区)	200,000 円	感震ブレーカー購入補助、高枝プルーナー購入
2016	ＮＳＣ(中原地区)	180,000 円 (見込み額)	救急医療情報キット「命のカプセル」購入、飛出し注意標識購入、反射タスキ購入等
2016	ＴＡＡ(富田地区)	200,000 円 (見込み額)	感震ブレーカー購入補助、防災図書購入等
2016	ＹＳＣ(八乙女地区)	106,050 円 (見込み額)	夜光反射タスキ購入、八乙女オリジナル「命のカプセル」作成配布、注意喚起看板作成費等

Supplement 8

(補足資料 8)

Efforts with Regard to Security and Safety

(安全・安心に関わる取組み)



[1] 領域別・年齢別プログラム

箕輪町では、両性、全年齢層、環境、状況をカバーする様々な安全向上や外傷予防にむけた取り組みを次のとおり分類しています。(表の中の数字はプログラム数です。なお【 】内の数字は、行政(町)以外の各団体や関係機関が主体的に実施しているものです。)

■ 領域別・年齢層別プログラム数

【図表 8-1】 出典：総務課調べ

	領域	子ども (0~14歳)	青年 (15~24歳)	成人 (25~64歳)	高齢者 (65歳以上)
不慮の要因	1 家庭	6【4】	4【3】	4【2】	10【6】
	2 保育園・学校	9【7】	5【3】	-	-
	3 職場・労働	-	5【5】	6【6】	5【5】
	4 交通・公共	6【6】	6【6】	6【6】	7【7】
	5 余暇・スポーツ	3【3】	3【3】	3【3】	4【4】
意図的要因	6 自殺	5【2】	7【3】	7【3】	7【3】
	7 暴力・犯罪	5【3】	5【3】	4【2】	4【1】
その他	8 災害	7【5】	9【6】	7【4】	8【5】

■ 領域別・年齢層別プログラムの事業名別内訳

※従前から取り組まれている同趣旨のものについては、現在の名称としています。

※()の数字は後述するプログラムの番号です。

※町事業は町が主体として実施している事業。上記以外は主体が町以外です。

【図表 8-2】 出典：総務課SC推進室調べ

			子ども (0~14)	青年 (15~24)	成人 (25~64)	高齢者 (65~)
不慮の事故	家庭	町事業	(1)もみじちゃんメール配信 (2)すこやか親子21	(1)もみじちゃんメール配信	(1)もみじちゃんメール配信 (3)みのわ健康アカデミー	(1)もみじちゃんメール配信 (3)みのわ健康アカデミー (4)いきいき塾 (5)膝と腰にやさしい体操教室
		上記以外	(6)みのわファミリーサポートセンター事業 (7)おはなし応援団 (8)民生児童委員の活動	(7)おはなし応援団 (8)民生児童委員の活動 (9)まちを明るくする運動	(8)民生児童委員の活動 (9)まちを明るくする運動	(8)民生児童委員の活動 (9)まちを明るくする運動 (10)安全安心の知恵袋

		(9) まちを明るくする運動			(11) 命のカプセル (12) スマイルサポート (13) 靴かかと反射シール
保育園・学校	町事業	(14) 読育 (15) 運動あそび	(14) 読育 (16) 情報伝達システム	—	—
	上記以外	(17) 通学安全パトロール (18) 子どもの安全教室 (19) 安全マップ (20) 不審者侵入訓練 (21) 子どもを犯罪から守る会 (22) KYT：危険予知トレーニング (23) 通学路交通安全プログラム	(19) 安全マップ (20) 不審者侵入訓練 (21) 子どもを犯罪から守る会		
職場・労働	町事業	—	—	—	—
	上記以外		(24) キャラバンメイト養成研修 (25) 農作業安全運動 (26) エントリーアドバイザー制度 (27) 農薬危害防止運動 (28) 勤労者互助会	(24) キャラバンメイト養成研修 (25) 農作業安全運動 (26) エントリーアドバイザー制度 (27) 農薬危害防止運動 (28) 勤労者互助会 (29) これからの農業林業を考えるEグループ	(24) キャラバンメイト養成研修 (25) 農作業安全運動 (27) 農薬危害防止運動 (29) これからの農業林業を考えるEグループ (30) 元気はつらつ箕輪の大先輩活動支援事業
交通	町事業	—	—	—	—

公共	上記以外	(31) 交通安全運動 (32) 交通少年団 (33) オール反射ナイト作戦 (34) ワッペン、チラシ配布 (35) 交通安全教室 (23) 通学路交通安全プログラム	(31) 交通安全運動 (33) オール反射ナイト作戦 (35) 交通安全教室 (36) 飲酒運転撲滅パトロール (37) スマートドライバートレーニング (38) 飲酒運転撲滅運動	(31) 交通安全運動 (33) オール反射ナイト作戦 (35) 交通安全教室 (36) 飲酒運転撲滅パトロール (37) スマートドライバートレーニング (38) 飲酒運転撲滅運動	(31) 交通安全運動 (33) オール反射ナイト作戦 (35) 交通安全教室 (36) 飲酒運転撲滅パトロール (37) スマートドライバートレーニング (38) 飲酒運転撲滅運動 (39) チャレンジ号
		町事業	—	—	—
余暇・スポーツ	上記以外	(40) 救急講習会 (41) すまいる（ボランティアグループ） (42) 天竜健康ウォーク	(40) 救急講習会 (41) すまいる（ボランティアグループ） (42) 天竜健康ウォーク	(40) 救急講習会 (41) すまいる（ボランティアグループ） (42) 天竜健康ウォーク	(30) 元気はつらつ箕輪の大先輩活動支援事業 (40) 救急講習会 (41) すまいる（ボランティアグループ） (42) 天竜健康ウォーク
		町事業	—	—	—

			子ども (0～14)	青年 (15～24)	成人 (25～64)	高齢者 (65～)
意図的	自殺	町事業	(43) 命の講演会 (44) 相談先案内カード (45) みのわ健康相談ダイヤル	(46) 心の相談 (47) ゲートキーパー養成講座 (44) 相談先案内カード (45) みのわ健康相談ダイヤル	(46) 心の相談 (47) ゲートキーパー養成講座 (44) 相談先案内カード (45) みのわ健康相談ダイヤル	(46) 心の相談 (47) ゲートキーパー養成講座 (44) 相談先案内カード (45) みのわ健康相談ダイヤル
		上記以外	(48) 人権教育 (49) 自殺予防街頭啓発	(48) 人権教育 (50) ひまわりの会（精神保健福祉ボランティア） (49) 自殺予防街頭啓発	(48) 人権教育 (50) ひまわりの会（精神保健福祉ボランティア） (49) 自殺予防街頭啓発	(48) 人権教育 (50) ひまわりの会（精神保健福祉ボランティア） (49) 自殺予防街頭啓発
意図的	暴力・犯罪	町事業	(51) 住民無料法律相談 (52) 暴力団排除条例	(51) 住民無料法律相談 (52) 暴力団排除条例	(51) 住民無料法律相談 (52) 暴力団排除条例	(51) 住民無料法律相談 (52) 暴力団排除条例 (53) 地域包括支援センター
		上記以外	(54) 子育て支援ネットワーク (20) 不審者侵入訓練 (55) あいさつ運動	(54) 子育て支援ネットワーク (20) 不審者侵入訓練 (55) あいさつ運動	(54) 子育て支援ネットワーク (55) あいさつ運動	(55) あいさつ運動
その他	災害	町事業	(56) 避難訓練 (57) 避難行動要支援者名簿	(58) 自主防災組織育成事業 (59) 防災士養成事業 (57) 避難行動要支援者名簿	(58) 自主防災組織育成事業 (59) 防災士養成事業 (57) 避難行動要支援者名簿	(58) 自主防災組織育成事業 (59) 防災士養成事業 (57) 避難行動要支援者名簿
		上記以外	(60) ガールスカウトによる防災マップ作製 (61) 消防団 (62) しょうぼう祭り (63) 総合防災訓練 (64) 地震被害軽減対策	(60) ガールスカウトによる防災マップ作製 (65) 火災報知器設置促進 (61) 消防団 (62) しょうぼう祭り (63) 総合防災訓練 (64) 地震被害軽減対策	(65) 火災報知器設置促進 (61) 消防団 (63) 総合防災訓練 (64) 地震被害軽減対策	(65) 火災報知器設置促進) (61) 消防団 (63) 総合防災訓練 (66) 災害時住民支え合いマップ (64) 地震被害軽減対策

[2] 各領域の取組み

※関係項目でプログラムが重複する場合は、先行掲出によります。

■ 不慮の要因

【図表 8-3】 出典：総務課SC推進室

①家庭関係

プログラム	内容	関係機関	実績
(1) もみじちゃんメール配信 (2009～)	不審者情報、生活安全に関する情報等をメールで配信	箕輪町 警察	不審者や災害情報等配信 2011年 登録者数2,454人 2016年 登録者数5,071人
(2) すこやか親子21 (2015～)	乳幼児の健診時に屋内施設面の安全チェック	箕輪町	4か月、1歳半、3歳児の健診時に実施
(3) みのわ健康アカデミー (2008～)	信州大学寺沢教授（医学博士）が提唱する「運動とコミュニケーション」の理論を取り入れ、トレーニングを行うことにより、熟年の健康増進、介護予防や生活習慣病予防を目指す。 （各種検査・測定（年3）、血液検査、身体計測、体力測定、脳機能測定等、トレーニング（週1回）、健康学習（月1回）など）	アカデミー 受講者 箕輪町 信州大学 など	アカデミー参加者 2012年 43人 延べ1,978人 2013年 45人 延べ2,070人 2014年 46人 延べ2,116人 2015年 35人 延べ1,610人



〔(3)みのわ健康アカデミーの様子〕

プログラム	内容	関係機関	実績
(4) いきいき塾 (2001～)	75歳以上の住民を対象に「いきいき塾」を開催。交通安全や防犯、防災についての講習も行う	箕輪町 社会福祉 協議会 など	2012年 122人延べ1,784人 2013年 110人延べ1,740人 2014年 118人延べ1,814人 2015年 118人延べ2,093人
(5) 膝と腰にやさしい体操教室 (2006～)	膝関節痛や腰痛などで不安を持っている方の健康増進のための教室	箕輪町 地域包括支援 センター	2012年 13人延べ141人 2013年 25人延べ280人 2014年 24人延べ267人 2015年 39人延べ420人
(6) みのわファミリーサポートセンター事業	子育ての援助を受けたい人（おねがい会員）と援助を行う人（まかせて会員）が会員となって助け合う、	親と子 ファミリーサ ポーター（登録	利用数 74人

(2010～)	住民主体の子育て支援活動。 学校や保育園の時間外に子どもを預かり、子どもの安全安心を守る。 孤立しがちな母親の子育て支援を通し児童虐待を未然に防ぐ。	ボランティア)	
(7) おはなし応援団 (2008～)	ボランティアによる子ども達への絵本やおはなし会を通じて家族・地域のふれあいを目指す。読書を通じた安全教育	おはなし応援団(住民ボランティア)	メンバー28人
(8) 民生児童委員の活動 (1948～)	地域住民の福祉増進のため、地域の実情を把握し、行政と密接に連絡をとりながら幅広く奉仕活動を行う。高齢者、子どもの安全を守る	民生児童委員 箕輪町	委員 59 人 (毎年)
(9) まちを明るくする運動 (2011～)	不審者出没減少と暗さへの不安解消のため、玄関灯や外灯を夜 9 時までつける運動	箕輪町内 SC ぐらしの安全対策委員会	モデル区松島区実態 2013 年 30/86 戸 2016 年 40/88 戸 ビラ配布 2012 年 700 枚 2013 年 39 枚 2014 年 42 枚
(10) 安全安心の知恵袋 (2012～)	高齢者のヒヤリハット集とけが予防チェックリストを合わせた「安全安心の知恵袋」を作成。出前講座等での啓発に活用	SC 高齢者の安全対策委員会	2013 年 40 部 2014 年 71 部 2015 年 265 部 HP 搭載
(11) 命のカプセル (2011～)	救急時に必要な情報を保管する救急医療情報キットの普及 2016 年 10 月携帯型の無料頒布	SC 高齢者の安全対策委員会	2016 年までの累計 設置 517 個、活用 9 件
(12) スマイルサポート事業 (2012～)	認知症高齢者の見守りと、行方不明時の早期対応	箕輪町、箕輪町 社会福祉協議会	2015 年 スマイルサポート対象として登録 7 人
(13) 靴かかと反射シール (2016～)	認知症高齢者の行方不明事案対応として靴かかるとに SC マーク入りの反射シールを貼り保護する	SC 高齢者の安全対策委員会	2016 年 8 月までの登録 4 人

②保育園・学校関係

プログラム	内容	関係機関	実績
(14) 読育 (2008～)	読書や読み聞かせを通じて、子どもの豊かな心と生きる力を育む。読書を通じた子ども達への安全教育	親と子 箕輪町	フェスティバル、講演会の実施。おはなし応援団など (毎年)
(15) 運動あそび (2004～)	「柳澤運動プログラム」に基づき、あそびを通じた運動活動により「心身ともに健康な子ども」を育てる 保育園、小学校低学年で実施	保育園 小学校 大学	保育園児(3歳以上)のケガ発生率 2006年 4.6% 2008年 3.6% 2010年 3.0% 2012年 0.9% 2013年 2.7% 2014年 3.8% 2015年 4.0%



〔(15)運動あそびの様子〕

プログラム	内容	関係機関	実績
(16) 情報伝達システム (2011～)	災害が発生したとき、あるいは発生するおそれがある時に、地域に密着した情報を流す	伊那ケーブルテレビ 箕輪町	システム構築 (2011～発信)
(17) 通学安全パトロール (2005～)	地域住民ボランティアによる登下校時の防犯パトロール 登下校中の子どもたちをボランティアが見守る	通学パトロール隊 学校	町内全小中学校（6校） で登校日に実施 (毎年)

〔(17)通学安全パトロールの様子〕



プログラム	内容	関係機関	実績
(18) 子どもの安全教室 (2008～)	プールでの事故を想定したAED等による救命救急講習や交通安全協会による自転車教室などを実施	学校 消防署 交通安全協会	全保育園、全小学校で年1回以上実施



〔(18)子どもの安全教室の様子〕

プログラム	内容	関係機関	実績
(19)安全マップ (2008～)	学校、PTA や通学パトロール隊が協力し、通学路等の危険箇所マップを作成	学校 PTA 通学パトロール隊	町内全小学校 (5校) 危険箇所把握数 2012年 72箇所 2013年 80箇所 2014年 91箇所 2015年 97箇所
(20)不審者侵入訓練 (2008～)	学校へ侵入した不審者への対処方法などを確認し、緊急時の対応に備える	学校 警察	年1回実施
(21)子どもを犯罪から守る会 (2011～)	あらゆる年齢の子ども達を犯罪から守る	子どもを犯罪から守る会	パトロール活動 (随時)
(22)KYT:危険予知トレーニング (2016～)	就学前の園児に安全安心教育 (危険予知トレーニング) を実施することで、子ども自身の安全力の育成を図る	SC 子どもの安全対策委員会 KYT 実施検討委員会 (地域子育て協議会等)	町内保育園で実施予定
(23)通学路交通安全プログラム (2015～)	児童生徒が安全安心に通学できることを目的に、関係する地域の行政・学校・PTA・地域など多様な主体が安全な通学路等登下校時の安全対策を講じる	SC 子どもの安全対策委員会 学校、PTA、 地域	2015年3月箕輪町通学路交通安全プログラム策定 対策箇所の改善事業、評価検証 定期的に検討実施

③職場・労働関係

プログラム	内容	関係機関	実績
(24)キャラバンメイト養成研修 (2007～)	認知症の人やその家族を地域で見守り支援	認知症サポーター、医療機関、箕輪町	サポーター 830人
(25)農作業安全運動 (1990頃～)	農繁期である春と秋に農作業中の安全対策等を広報	労働基準監督署 上伊那農業協同組合 営農支援センター	春と秋に実施 (毎年)
(26)エントリーアドバイザー制度 (2005～)	中小企業が抱える問題に、コンサルタント等専門家を派遣し適切な診断助言を行う。心の悩み相談	商工会	アドバイザー 10人
(27)農薬危害防止運動 (1990頃～)	農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理の徹底 広報誌等を通じた広報	農協	広報誌「みのわの実」に年1回掲載 (毎年)
(28)勤労者互助会 (1987～)	事業主と従業員の福利厚生 の増進 (安全対策)	商工会 箕輪町	年1回研修会の実施 (毎年)
(29)これからの農業林業を考えるEグループ (2004～)	地域の課題を話し合う中から農業・林業に関する課題 (安全面等) に対応	これからの農業林業を考えるEグループ	遊休農地・荒廃農地の減少 講習会等 (毎年)

(30) 元気はつらつ箕輪の大先輩活動支援事業 (2010～)	生涯現役体制を推進するため地域の諸活動に積極的に参加した人に「箕」ポイントを付与	公民館 長寿クラブ ふれあいサロンほか	元気ポイント交換者数 2012年 1,172人 2013年 1,302人 2014年 1,352人 2015年 1,329人 2016年 1,276人
------------------------------------	--	---------------------------	--

〔(30) 元気はつらつ箕輪の大先輩活動支援事業〕



④交通関係

プログラム	内容	関係機関	実績
(31) 交通安全運動 (1957～)	沿道に立って事故防止を呼びかける人波作戦、安全協会役員（住民）による交差点での広報活動など 年4回交通安全週間を実施	交通安全協会 交通安全推進協議会 警察署 など	箕輪町交通安全条例（平成10年）の推進 春、夏、秋、冬の年4回交通安全週間を実施 （毎年）
(32) 交通少年団 (1982～)	子どもによる運転者への安全運転の呼びかけ、交通安全研修などを通じて子どもも大人も交通安全を意識する。（小学5-6年生）	交通安全協会 交通安全推進協議会 警察署、交通少年団 小学校	団員数 2011年 98人 2012年 128人 2013年 126人 2014年 129人 2015年 122人



〔(32) 交通少年団の様子〕



プログラム	内容	関係機関	実績
(33) オール反射ナイト作戦 (2010～)	夜間の歩行者や車の見え方を学ぶことを通じて夜間歩行時の反射材着用の大切さを参加者に知ってもらう。夜間交通事故防止	交通安全協会 交通安全推進協議会 警察署 区	実施 2012年 12回 300人 夜光タスキ販売 2012年 600本 2013年 200本 2014年 400本 2015年 100本
(34) ワッペン、チラシ配布 (2004～)	交通安全教室にて蛍光ワッペンやチラシ配布	交通安全協会 交通安全推進協議会	その都度

(35) 交通安全教室 (1990頃～)	学校や保育園、長寿クラブ 会合での交通安全教室	交通安全協会 交通安全推進協議 会	2012年17回 2,548人 2013年18回 2,372人 2014年16回 2,323人 2015年17回 2,425人
プログラム	内容	関係機関	実績
(36) 飲酒運転撲滅 パトロール (1990頃～)	住民ボランティアが町内飲食 店を巡回し、店の従業員と客に 飲酒運転防止を呼びかけ	交通安全協会 交通安全推進協議会 警察署	年2回実施 (毎年)

[(36) 飲酒運転撲滅パトロールの様子]



プログラム	内容	関係機関	実績
(37) スマートドラ イバー運動 (2011～)	スマートドライバーステ ッカーをドライバーに配 布し、車につけてもらうこ とで運転マナーの向上を 図り、事故を減少させる	交通安全協会 交通安全推進協議会 警察署	ステッカー配布 2013年 4,141枚 2014年 529枚 2015年 1,267枚

[(37) スマート
ドライバー運動の様子]



プログラム	内容	関係機関	実績
(38) 飲酒運転撲滅 運動 (2015～)	高齢者の飲酒運転が散見されたことか ら、飲酒運転撲滅店(飲食店、コンビニ 等)宣言証の取組みにより、運転者に種 類提供をしない運動推進	SC 交通安全、 高齢者の安全 対策委員会	宣言店舗 (2015年109店/ 町内126店中)

[(38) 飲酒運転撲滅運動
の様子]



プログラム	内容	関係機関	実績
(39) チャレンジ号 (2010～)	交通安全体験車「チャレンジ号」でのゲーム感覚の運転能力テストを通じて高齢者等が自分の運転能力を知り、運転時の注意点を理解する	交通安全協会 交通安全推進協議会 警察署	2012年3回 64人 2013年2回 100人 2014年2回 65人 2015年2回 119人



[(39) チャレンジ号の様子]

⑤余暇・スポーツ関係

プログラム	内容	関係機関	実績
(40) 救急講習会 (2004～)	AEDの取り扱いや人工呼吸などの方法を習得	学校 消防団 日赤奉仕団 など	2012年 51回 1,021人 2013年 44回 1,316人 2014年 25回 491人 2015年 37回 953人

プログラム	内容	関係機関	実績
(41) すまいる（ボランティアグループ） (1991～)	障がいのある方とのふれあいを実施	ボランティアグループすまいる 社会福祉協議会	年2回 (毎年)
(42) 天竜健康ウォーク (2007～)	町の中心を流れる天竜川の河畔を歩くことを通じて参加者の健康・体づくりを実現する	天竜健康ウォーク実行委員会	毎年1回実施 (毎年)



[(42) 天竜健康ウォークの様子]

■ 意図的要因

⑥自殺関係

プログラム	内容	関係機関	実績
(43) 命の講演会 (2008～)	いのちの大切さを学ぶ講演会	箕輪町	毎年1回実施
(44) 相談先案内カード (2011～)	悩んだ時の対処法を知らせるため相談先カードを作成して、公共施設、コンビニ、医療機関の個室トイレ等へ配置	箕輪町	設置施設数 2011年 6箇所、 2012年 15箇所、2013年 18箇所、 2014年 34箇所、2015年 37箇所 配布枚数 2015年末 男性用 5,500枚 一般用 5,500枚



[(44) 相談先案内カードの設置の様子]

プログラム	内容	関係機関	実績
(45) みのわ健康相談ダイヤル (2013.5～2016.3)	電話による24時間健康等相談窓口開設	箕輪町	2013年 224件うちメンタル関係 14件 2014年 307件うちメンタル関係 14件 2015年 678件うちメンタル関係 29件
(46) 心の相談 (1990頃～)	心の悩み、アルコール依存症等精神についての専門医師等による相談	医師 箕輪町	奇数月予約制 2013年 5回 224件 2014年 6回 307件 2015年 6回 582件
(47) ゲートキーパー養成講座 (2011～)	自殺のサインに気づき、適切な対応ができる人の育成を目指し、専門的知識を持つ者が講師	箕輪町	2011年 72人、2012年 27人 2013年 72人、2014年 134人 2015年 18人
(48) 人権教育 (1990頃～)	「人権講座」の開催 公民館学級における人権学習会 企業内人権学習会	箕輪町 公民館 商工会等	公民館講座 5回 分館講座 15回 で1時間実施
(49) 自殺予防街頭啓発 (2014～)	自殺に対する関心度を高めるための街頭活動	SC自殺予防対策委員会、自殺予防対策連絡会	2014年 成人式 2015年 成人式 コンビニ、スーパー 2016年パチンコ店、書店
(50) ひまわりの会 (精神保健福祉ボランティア) (2005～)	精神に障がいを持つ当事者に憩いの場を提供	ひまわりの会	勉強会 食事会などの実施

⑦暴力・犯罪関係

プログラム	内容	関係機関	実績
(51) 住民無料法律相談 (2010～)	住民の不安を少しでも解決し、明るく健やかな生活が送れるよう、町顧問弁護士による「住民無料法律相談所」を開設	箕輪町	毎年実施 年6回
(52) 暴力団排除条例 (2011～)	暴力団の排除を推進し、全町民が安全で安心して生活できる住みよい地域社会を実現する	箕輪町 警察	2011年9月制定
(53) 地域包括支援センター (2006～)	地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う	地域包括支援センター	実施にあわせて相談対応
(54) 子育て支援ネットワーク (2006～)	要保護児童等に関する関係機関の情報交換及び連携・協力	医師会、歯科医師会、保健福祉事務所 ほか	子育て支援ネットワーク協議会の設置 会議の開催
(55) あいさつ運動 (2014～)	地域のコミュニケーションの活性化を図り、住みよい環境づくり、犯罪抑止等のため、県の「信州あいさつ運動」に呼応して実施	SC 子どもの安全・くらしの安全対策委員会 町教育委員会	信州あいさつ運動の日である毎月11日を中心に実施

■ その他

⑧災害

プログラム	内容	関係機関	実績
(56) 避難訓練 (2008～)	保育園、学校での災害時の避難訓練	保育園 学校	年4回実施 (毎年)
(57) 避難行動要支援者名簿 (2015～)	2013年改正災害対策基本法で自治体に作成義務付けた名簿により要配慮者を把握し、災害時の保護活動実施	箕輪町	2015年8月策定 名簿登載者1,824人 地区の支え合いマップ登載者591人
(58) 自主防災組織育成事業 (2009～)	上限10万円の補助金により自主防災組織の活動を支援	箕輪町	2014年までに町内15地区すべてに自主防災組織が発足し、補助金を効果的に活用
(59) 防災士養成事業 (2013～)	防災士資格取得の補助制度により、継続的な地域防災力向上	箕輪町	2012年 防災士7人 防災士箕輪町連絡会発足 2016年 防災士34人
(60) ガールスカウトによる防災マップ作成 (1984～)	小学生の団員を中心に住民へのヒアリング等を行い防災マップを作成	小・中学校 ガールスカウト日本連盟 社会教育団体	ぼうさいマップ作成 (2007～) 「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」で入賞
(61) 消防団 (1935～)	住民ボランティアによる消防組織。日頃から消火訓練、救護訓練、消防設備の点検等を実施。	箕輪町消防団 箕輪消防署	6分団、約450人 ポンプ操法大会、規律訓練、救護大会、消防設備点検(月2回以上)



[(61) 消防団の活動風景]

プログラム	内容	関係機関	実績
(62) しょうぼう祭り (2010～)	消防署を一般公開。煙体験、消防車、救急車見学、消火器の使い方の講習などを通じて子ども、大人が火災予防の大切さを学ぶ	箕輪消防署	年1回実施
(63) 総合防災訓練 (毎年1回実施)	巨大地震に備え、行政と住民が協働し、避難訓練や情報伝達訓練、消火、救護訓練などを実施	箕輪町 消防署 消防団 自主防災会	年1回 町本部と 15区で実施
(64) 地震被害軽減 対策 (2016～)	国内外における地震被害の頻発及び箕輪町の被害予測から、減災意識向上と家具転倒防止対策、感震ブレーカー普及促進	SCくらしの安全対策委員会	北小河内地区 などモデル地区からの推進



[(64) 家具転倒防止対策のつっぱり棒]



[(64) 地震後の電力復旧による
通電火災を防ぐ感震ブレーカー]

プログラム	内容	関係機関	実績
(65) 火災報知器設置促進 (2008～)	住宅用火災報知器を各部屋に設置するよう呼びかけ	箕輪消防署 箕輪町消防団	消防団が家庭にチラシ配布 2011年設置率57.8%
(66) 災害時住民支え合いマップ (2007～)	災害発生に備え、対応や災害時に必要な情報をマップ化。地域住民が作成	社会福祉協議会 区	すべての区で実施 2015年8月登載者591人

Supplement 9

(補足資料 9)

High Risk Groups

(ハイリスクグループ)



[1] ハイリスクグループ

箕輪町が設定したハイリスクグループは、次のとおりです。

■ ハイリスクグループ及びそれに対する主な実施プログラム

ハイリスクグループ	プログラム名	前述のプログラム NO	各対策委員会の関与の別
交通事故の発生割合が高い高齢者	高齢者交通安全教室	(35)	間接
	反射材等普及啓発・着用指導	(33)	直接
	人波作戦	(31)	直接
	交通事故防止等街頭啓発活動	-	直接
	チャレンジ号	(39)	間接
転倒によるケガの割合が高い高齢者	安全・安心の知恵袋	(10)	直接
	いきいき塾	(4)	間接
	膝と腰にやさしい体操教室	(5)	間接
	みのわ健康アカデミー	(3)	間接
保育園・学校内でのケガが多い保育園児・小学生	ケガ多発箇所マップ	(19)	間接
	安全教室	(18)	間接
	運動あそび	(15)	間接
	危険予知トレーニング	(22)	直接
不審者に狙われやすい小中学生	通学パトロール隊	(17)	間接
	通学路危険箇所マップ	(19)	間接
	防犯パトロール	-	直接
	町を明るくする運動	(9)	間接
	あいさつ運動	(55)	直接
日々の暮らしに不安がある独居高齢者	独居高齢者訪問	(8)	間接
	命のカプセル	(11)	直接
	明日葉の会	-	間接
自殺による死亡者数の割合が高い20～60歳代の男性	こころの相談窓口	(46)	間接
	ゲートキーパー養成講座	(47)	間接
	自殺予防対策連絡会	-	間接
	自殺予防街頭啓発活動	(49)	直接
	相談先案内カード	(44)	間接

[2] ハイリスクグループを設定した背景

■ 交通事故の発生割合が高い高齢者

(1) ハイリスクグループに位置づけた背景

交通事故における高齢者の割合は、3割以上と高い状況が見られました。特に長野県と比較しても箕輪町は高い傾向にあります。

【図表 9-1】 出典：伊那警察署「交通事故のあらまし」

高齢者の交通事故状況 (2011～2015)

	区分	2011	2012	2013	2014	2015
総交通事故 件数	長野県	10,568	10,403	9,858	9,286	8,867
	箕輪町	93	91	91	76	95
うち高齢者 事故件数	長野県	3,379	3,397	3,289	3,318	3,273
	箕輪町	30	33	59	31	44
高齢者事故 割合	長野県	32.0%	32.7%	33.4%	35.7%	36.9%
	箕輪町	32.3%	36.3%	64.8%	40.8%	46.3%

SC認証取得



(2) 実施しているプログラム

『高齢者交通安全教室』

65歳以上の高齢者が集う「長寿クラブ」の活動時に、交通事故の予防のための安全講和などを、町交通安全協会を中心に行っています。

【実施関係者】長寿クラブ、町交通安全協会、SC交通安全対策委員会など

『反射材等普及啓発・着用指導』

65歳以上の高齢者が集う「長寿クラブ」や「ふれあいサロン」、広報等を通じて、夜間歩行中の交通事故防止のため、夜光反射材の普及啓発や着用指導を行っています。2016年には、70歳以上高齢者及び障がい者の方を対象に夜光反射リストバンドの配布を行いました。

【実施関係者】長寿クラブ、町交通安全協会、SC交通安全対策委員会など

『人波作戦』

高齢者を含む自動車運転者を対象に、交通事故防止を呼び掛けながら、啓発チラシ等を手渡す活動を行っています。

【実施関係者】町交通安全推進協議会、町交通安全協会、SC交通安全対策委員会、町緑十字会、町議会、警察、町、一般企業など

『交通事故防止等街頭啓発活動』

高齢者を含む大型店舗への来店者を対象に、交通事故防止や飲酒運転防止を呼び掛ける街頭啓発活動を行っています。

【実施関係者】SC交通安全対策委員会、SC高齢者の安全対策委員会

『チャレンジ号』

高齢者を対象に、シュミレーターなどを用いて運動能力などを測定し、反射神経や運転能力がどのくらいのレベルかを知っていただくことで、より安全な運転を促しています。

【実施関係者】長寿クラブ、警察、町交通安全協会、SC交通安全対策委員会など

■ 転倒によるケガの割合が高い高齢者

(1) ハイリスクグループに位置づけた背景

2010年から2015年の救急搬送データのうち、外的要因によるものは、1,573件でしたが、そのうちの740件、47%が一般負傷によるものでした。一般負傷のうち、68.9%、510件が高齢者によるもので、そのうちの68%、347件は転倒が原因によるものとの結果から、高齢者の転倒によるケガをハイリスクとしました。

【図表 9-2】 出典：救急搬送データ

外的要因による救急搬送の内訳 (2010~2015)

外的要因による救急搬送件数	うち一般負傷	うち高齢者	うち転倒・転落
1,573件 100%	740件 47%	510件 69%	347件 68%

(2) 実施しているプログラム

『安全・安心の知恵袋』

自宅内で転倒しやすい箇所や状態について注意や環境改善を促す冊子を作成し、高齢者を対象に説明・配布することで、転倒防止を図っています。

【実施関係者】SC高齢者の安全対策委員会、長寿クラブ、町社会福祉協議会、町健康推進課、町福祉課など

『いきいき塾』

虚弱高齢者を対象に、月3回、転倒予防につながる軽運動を1年を通じて行っています。

【実施関係者】町福祉課、町社会福祉協議会、SC高齢者の安全対策委員会など

『膝と腰にやさしい体操教室』

65歳～79歳の方を対象に、週1回、3ヶ月間2クール、楽しみながら体を動かす体操を実施しています。この活動にはOB会も存在し、自主活動も行っています。

【実施関係者】町福祉課、膝と腰にやさしい体操教室OB会、SC高齢者の安全対策委員会

『みのわ健康アカデミー』

40歳～74歳の比較的元気な方を対象に行っている、総合的な健康づくり支援教室で、週1回、1年を通じて実施しています。OB会が存在し、自主活動としてマシンを使ったトレーニングを行っています。

【実施関係者】町健康推進課、信州大学、みのわ健康アカデミーOB会、SC高齢者の安全対策委員会など

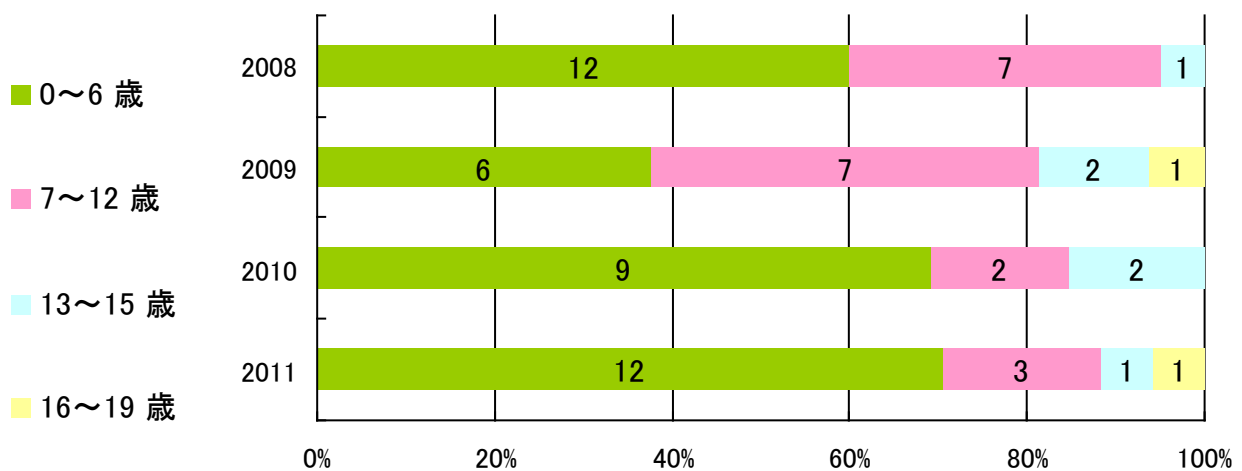
■ 保育園・学校内でのケガが多い保育園児・小学生

(1) ハイリスクグループに位置づけた背景

2008年から2011年の一般負傷による救急搬送件数は、0～6歳と7～12歳で8割以上を占めています。また、【図表9-4】のとおり、SC認証取得前の2010年における、保育園・小学校管理下におけるケガの発生率が全国平均を上回ったことから、ハイリスクとしました。

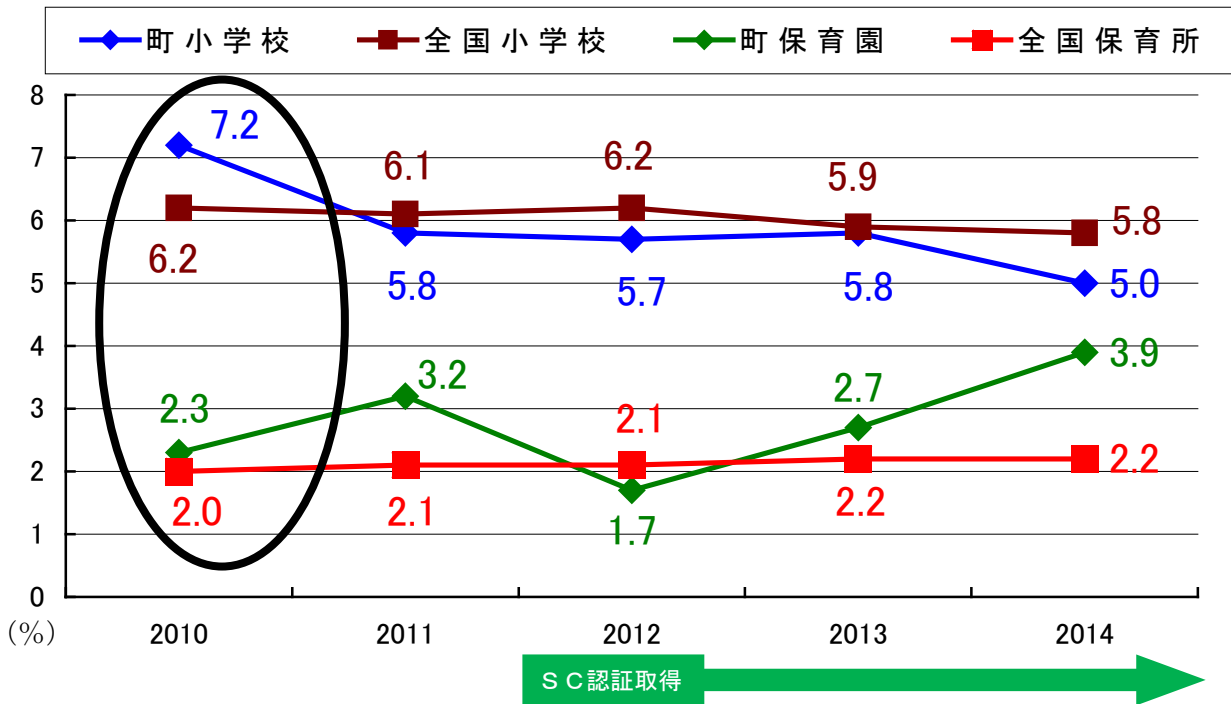
【図表9-3】 出典：救急搬送データ

年齢区別 一般負傷による救急搬送件数の割合



【図表 9-4】 出典：災害給付制度データ（日本スポーツ振興センター）

保育園・小学校管理下におけるケガの発生率の推移（2010～2014）



(2) 実施しているプログラム

『ケガ多発箇所マップ』

小学校内におけるケガ多発箇所をマップ化し、危険箇所には注意を促すシールを貼っています。

【実施関係者】 小学校、児童、SC子どもの安全対策委員会、学校教育課など

『安全教室』

保育園や小学校において、安全教室を実施し、ケガ予防などの啓発を行っています。

【実施関係者】 保育園、小学校、保護者、児童、町交通安全協会、SC子どもの安全対策委員会など

『運動あそび』

保育園や小学校低学年において、遊びながら運動するプログラム、「運動あそび」の導入により、大ケガをしにくい体づくりを行っています。

【実施関係者】 保育園、小学校、町子ども未来課、町学校教育課など

『危険予知トレーニング』

保育園において、イラスト教材を使って、園児に危険を予知するトレーニングを実施することにより、危険予知力や危機回避力を養うことでケガの抑制を目指しています。

【実施関係者】 保育園、保護者、町子ども未来課、SC子どもの安全対策委員会など

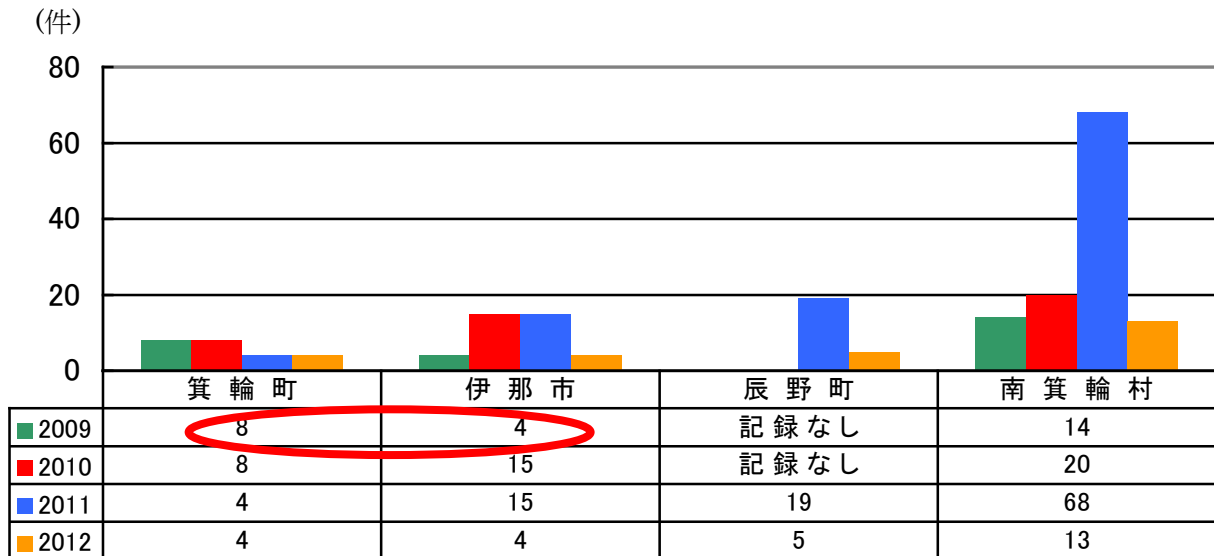
■ 不審者に狙われやすい小中学生

(1) ハイリスクグループに位置づけた背景

SC認証取得前の2009年における、伊那警察署管内市町村別声かけ事案発生件数（10万人対）では、伊那市に比べ、2倍も高い状況が見られました。

【図表 9-5】 出典：伊那警察署生活安全課

伊那警察署管内市町村別声かけ事案発生件数の推移（10万人対）



(2) 実施しているプログラム

『通学パトロール隊』

登下校時の通学路で、小中学生の保護者や地域のボランティアを中心に見守りを行っています。

【実施関係者】保護者、小学校、中学校、地域住民、町学校教育課、SC子どもの安全対策委員会など

『通学路危険箇所マップ』

小学校の通学路において、ソフト・ハード両面から判断した危険箇所をマップ化し、注意喚起に活用しています。

【実施関係者】小学校、保護者、町学校教育課、SC子どもの安全対策委員会など

『防犯パトロール』

年数回、地元自治会等による夜間防犯パトロールを行い、地域の安全向上に努めています。

【実施関係者】自治会、警察、消防団、地区SC推進協議会、町総務課など

『町を明るくする運動』

通学・通勤者が多い町の中心市街地にある住宅の玄関灯などを、夜9時まで点灯することにより、地域を明るくすることで、安全・安心につなげる運動。

【実施関係者】地域住民、自治会、SCくらしの安全対策委員会

『あいさつ運動』

地域であいさつを交わすことにより、コミュニケーションの活性化を図り、住みよい環境を築くことで犯罪を抑止する効果を狙った活動を行っています。

【実施関係者】地域住民、地区SC推進協議会、SC子どもの安全対策委員会、SCくらしの安全対策委員会、箕輪町SC推進協議会、保育園、小・中・高校など

■ 日々の暮らしに不安がある独居高齢者

(1) ハイリスクグループに位置づけた背景

SC認証前の2010年に、高齢者独居世帯を対象に「ひとり暮らしの感じ方」を調査したところ、不安を感じる方が最も多く、全体でも4割を超える結果になりました。

【図表 9-6】 出典：箕輪町社会福祉協議会（ひとり暮らし世帯生活実態調査 2010）

高齢者のひとり暮らしにおける感じ方



(2) 実施しているプログラム

『独居高齢者訪問』

年数回、独居高齢者のお宅を訪問し、状況を確認しながら、生活相談を受けています。

【実施関係者】民生児童委員協議会、町福祉課など

『命のカプセル』

氏名や生年月日等の個人情報や医療情報、緊急連絡先などを記入したカードを筒の中に入れ、冷蔵庫に保管します。冷蔵庫の扉や玄関扉には、命のカプセルの存在を知らせるシールを貼り、その情報を救急隊に知らせることで、一朝有事の際、迅速な救助に役立てています。

2016年には、70歳以上の高齢者及び障がい者の方を対象に、携帯型命のカプセルを無償配布しました。

【実施関係者】民生児童委員協議会、SCくらしの安全対策委員会、地区SC推進協議会、消防署、町福祉課など

『明日葉の会』

一人暮らし高齢者を対象に、近況を報告したり、お食事会をしたり、軽体操やお楽しみ会などを実施しています。

【実施関係者】町社会福祉協議会、民生児童委員協議会、生活介護支援サポーター、町福祉課

■ 自殺による死亡者数の割合が高い20～60歳代の男性

(1) ハイリスクグループに位置づけた背景

2009年～2012年における男女別世代別自殺者数を見ると、男性、特に20歳代～60歳代の占める割合は、6割を超える結果でした。

【図表 9-7】 出典：自殺統計原票データ

男女別世代別自殺者数（2009～2012）

	0～19歳	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	合計
男性(人)	0	1	3	3	5	2	2	16
女性(人)	0	0	2	0	2	1	2	7
合計(人)	0	0	5	3	7	3	4	22

(2) 実施しているプログラム

『こころの相談窓口』

年6回、精神科医や臨床心理士などの専門家による相談窓口を設けています。

【実施関係者】町健康推進課、医師、臨床心理士などの専門家

『ゲートキーパー養成講座』

出前講座等により、自殺について正しい知識を学び、自殺の兆候に気付ける人材を育成する講座を実施しています。

【実施関係者】町健康推進課、伊那保健福祉事務所、長野県精神保健福祉センター、SC自殺予防対策委員会、自殺予防対策連絡会など

『自殺予防対策連絡会』

2013年に自殺予防に関係する団体等20団体で設立したネットワーク組織で、情報共有・活用により、自殺予防活動に役立っています。

【実施関係者】一般町民、ボランティア、医師会、保護者会、警察、消防団、民生児童委員協議会、日赤奉仕団、町社会福祉協議会、町健康推進課など

『自殺予防街頭啓発活動』

大規模店舗、コンビニ、パチンコ店などの出入口にて、自殺予防を呼びかけるチラシ等を手渡ししながら、啓発活動を行っています。

【実施関係者】SC自殺予防対策委員会、自殺予防対策連絡会、協力企業、町健康推進課など

『相談先案内カード』

各種の相談先案内カードを作成し、公官庁や医療機関、コンビニの個室トイレに設置し、人目を気にすることなくカードを持って行っていただくことで相談に繋がっていきます。

【実施関係者】SC自殺予防対策委員会、町健康推進課、医療機関、協力企業など



【こころの健康づくり講演会】



【自殺予防街頭啓発活動の様子】



【トイレの個室に設置された相談先案内カード】

[2] ハイリスク環境の事例

■ 人身交通事故の急増

(1) ハイリスク環境の設定

2015年、箕輪町における人身交通事故が急増したことを受け、SC交通安全対策委員会では、事故発生場所のデータを警察から情報提供していただき、最多発箇所である国道バイパス（田中城地籍）をハイリスク環境として設定しました。

優先的集団としての対象は、車両運転者や歩行者、周辺住民及び企業であり、環境としては、片側2車線の国道バイパスで隣立する大型店舗の車両出入口付近や町道512号線との信号機付交差点です。



(2) コミュニティでの特定プログラム

「人波作戦」（交通事故防止を呼びかけ、注意喚起チラシ配布や啓発ティッシュを手渡す街頭活動）を実施しています。

実施関係者としては、町交通安全推進協議会、町交通安全協会、SC交通安全対策委員会、町緑十字会、町議会、警察、町などが参加しています。

なお、交通事故の発生割合が高いのは高齢者ですが、「人波作戦」には町緑十字会といった高齢者による交通事故防止を目的としたボランティア団体も参加しています。

「注意喚起看板」を衝突事故が多い大型店舗の出入口に設置し、注意喚起に活用しています。

実施関係者としては、大型店舗、町交通安全推進協議会、町交通安全協会、SC交通安全対策委員会の協力により設置しました。



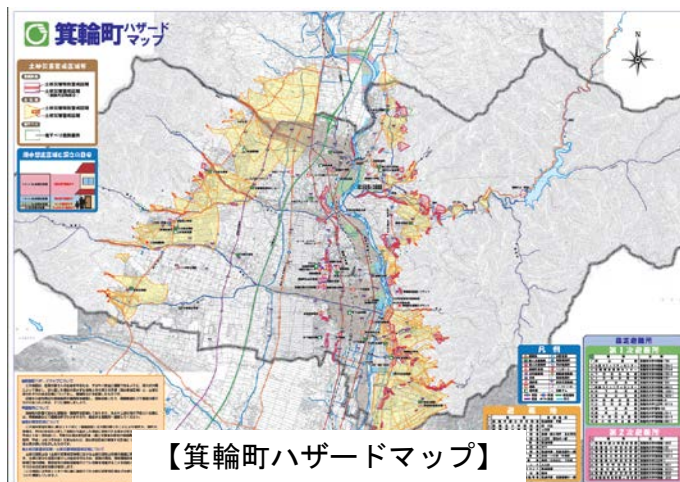
(3) 取組みのタイムテーブル

取組みにあたっては、①当年人身事故発生箇所データを入手⇒②SC交通安全対策委員会による現場踏査、原因分析、対策検討⇒③対策案実施⇒④翌年人身事故発生箇所データを入手⇒⑤データ比較、効果検証 といったサイクルで診断、取組み、振り返りを1年スパンで実施し、結果について箕輪町SC推進協議会や外傷調査委員会に報告しています。

■ 災害

(1) ハイリスク環境の設定

大雨などによる水害に対し、2014年9月、土砂災害防止法に定める土砂災害警戒区域等を長野県知事指定で全町内指定を完了しました。これにより特別警戒区域として169箇所、警戒区域として196箇所が指定されましたので、これらの地域をハイリスク環境として設定しました。



2015年に、地震による災害に対し、箕輪町における被害想定が長野県から発表されました。

『糸魚川-静岡構造線断層帯南側地震』の被害想定では、マグニチュード7.6、30年以内発生確率13~30%、震度7、全半壊4,390棟、死者100人、停電11,510軒となっており、地震による災害の面からも特別警戒区域及び警戒区域はハイリスク環境にあると言えます。

(2) 町のプログラム

2015年には、防災ハザードマップを全戸配布しましたが、マップには、避難地や避難所を掲載するとともに、「土砂災害の種類」「非常時持出品のチェックリスト」「応急手当」などの情報についても記載しています。

また、震災総合訓練として年1回、全町をあげて避難訓練等を実施しており、毎年3,000人以上の住民が参加しています。

(3) 対策委員会としての取組み

SCくらしの安全対策委員会では、2015年に発表された地震被害想定を受け、委員会の課題として取り組むかどうか検討した結果、新たな課題として取り組むことに決めました。

その背景には、毎年実施している震災総合訓練への参加者が、2014年の3,932人に対し、2015年は3,329人と、約15%も減少したことから、新課題として取り組むことを決めました。

課題を「地震被害の軽減対策が不十分」とし、地震からの減災意識と減災対策の向上を目標としました。内容的には、①減災・防災意識を高め、訓練参加者や防災士を増やす。②家具転倒防止対策や感震ブレーカーの普及を促進する、としました。具体的な活動については今後、対策委員会で検討していきます。



←地震発生後の
通電火災を防ぐ
「感震ブレーカー」

Supplement 10

(補足資料 10)

Programs Implemented by Task Force Teams

(対策委員会が実施するプログラム)



[1] 対策委員会が実施するプログラム

■ 交通安全対策委員会

1 反射材等の利用推進プログラム	
課題	夜間の重傷・死亡事故割合が多い
目標	夜間の交通事故の割合を減らす
内容	交通事故の注意喚起や反射材等の普及啓発・着用指導
対象	運転者、歩行者、町民
実施関係者	長寿クラブ、町交通安全協会、SC交通安全対策委員会、警察など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2012	2013	2014	2015	
活動指標	反射タスキ配布数	本	600	200	400	100	
	人波作戦・街頭啓発活動回数	回	4	4	4	6	
認識・知識	反射タスキの所持率	n=547	-	-	-	46.6%	
態度・行動	反射タスキ所持者の活用率【2015 アンケート開始】	n=255	-	-	-	よく活用 15.7%	
状態・状況	夜間の重傷・死亡交通事故人数と割合【警察統計】	年	2011	2012	2013	2014	2015
		人数	4	2	2	3	1
		割合	3.1%	1.6%	1.8%	3.8%	1.1%

2 高齢運転者安全対策プログラム

課題	高齢者の事故のうち運転中の事故が多い
目標	高齢者の運転中の事故割合を減らす
内容	高齢運転者への安全教育と飲酒運転撲滅の推進
対象	高齢運転者、町民、酒類取扱店
実施関係者	長寿クラブ、町交通安全協会、SC交通安全対策委員会、警察など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2012	2013	2014	2015
活動指標	高齢者交通安全教室開催数	回	11	11	14	7
	交通安全街頭啓発等活動数	回	2	2	1	4
認識・知識	高齢者交通安全教室受講者数	人	500	450	372	291
	チャレンジ号体験者数	人	30	100	65	119
態度・行動	運転免許自主返納数	人	26	17	28	29
	飲酒運転逮捕件数	件	4	5	0	3
状態・状況	高齢運転者の運転中の交通事故件数と割合	件	13	22	20	18
		%	84.6	75.9	62.5	64.3

3 交差点事故対策プログラム	
課題	交差点の事故が多い
目標	交差点での交通事故件数を減らす
内容	交通安全設備の拡充
対象	交差点付近（交通事故多発箇所）
実施関係者	長野県、警察、町交通安全協会、地元自治会、町など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2012	2013	2014	2015
活動指標	人波作戦・街頭啓発活動回数	回	4	4	4	6
認識・知識	交通事故多発箇所数	箇所	-	-	-	14
態度・行動	交通安全設備の充足感 【2015 アンケート開始】	n=551	-	-	-	大 60%
			-	-	-	中 27%
状態・状況	道路標識・表示新設数	箇所	47	28	36	19
	信号機新設数	箇所	1	0	1	0
	道路反射鏡新設数	基	15	23	25	16
	交差点事故件数と割合 【交通事故のあらまし】	件	57	50	44	52
		%	62.6	54.9	57.9	54.7

■ 高齢者の安全対策委員会

1 安全・安心の知恵袋推進プログラム	
課題	屋内での高齢者の転倒事故と 75 歳以上の高齢者の骨折が多い
目標	高齢者の転倒事故件数を減らす
内容	安全・安心の知恵袋の配布と活用により、転倒防止を図る
対象	高齢者
実施関係者	SC交通安全対策委員会、長寿クラブ、社会福祉協議会、民生児童委員協議会

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2012	2013	2014	2015		
活動指標	安全安心の知恵袋配布数	冊	1,334	40	71	265		
認識・知識	高齢者の知恵袋認知率 【2015 アンケート開始】	n=261 %	-	-	-	よく知る 5.4%		
						少し知る 25.3%		
態度・行動	家内でのケガ防止対策実施率 【2015 アンケート開始】	n=548 %	-	-	-	よく行う 11.7%		
						少し行う 36.5%		
状態・状況	高齢者の転倒事故による救急搬送者数(1000人対) 【救急搬送データ】	年	2010	2011	2012	2013	2014	2015
		人	12.1	9.5	8.8	11.6	4.8	7.8

2 転倒予防対策推進プログラム	
課題	骨折、骨粗しょう症による要介護認定者の割合の伸び率が大きい
目標	骨折、骨粗しょう症による要介護認定者の割合の減少
内容	介護予防教室等の推進及び活用
対象	高齢者及びプレ高齢者
実施関係者	介護保険事業所、町社会福祉協議会、SC高齢者の安全対策委員会、町など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2012	2013	2014	2015		
認識・知識	各種健康教室への呼びかけ	回数	3	3	4	4		
態度・行動	「いきいき塾」参加者数	延人数	1,784	1,740	1,814	2,093		
	「膝と腰教室」参加者数	延人数	141	280	267	420		
	「健康アカデミー」参加者数	延人数	1,978	2,070	2,116	1,610		
	町トレーニング施設における高齢者利用延人数	2011 8,897	2012 8,540	2013 9,161	2014 10,305	2015 10,716		
状態・状況	骨折、骨粗しょう症による要介護認定者の割合%	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
		13.1	11.6	11.8	10.2	9.2	11.4	10.2

■ 子どもの安全対策委員会

1 保育園・小学校でのケガ予防プログラム	
課題	小学校は体育館・校庭、保育園は保育室・遊技室・遊具でのケガが多い
目標	小学校及び保育園におけるケガの発生件数を減らす
内容	①小学校におけるケガ多発箇所表示等の推進 ②小学校及び保育園における安全教室によりケガの減少を図る
対象	小学生、保育園児、
実施関係者	保育園、小学校、保護者、町交通安全協会、SC子どもの安全対策委員会など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2012	2013	2014	2015		
活動指標	ケガ多発箇所マップ作成校数	校数	5 小学校	5 小学校	5 小学校	5 小学校		
	保育園安全教室実施回数	回	9	9	9	8		
	保育園での安全教室参加者数	人	637	593	580	606		
態度・行動	医療機関受診を伴う	年	2010	2011	2012	2013	2014	2015
	保育園でのケガ発生率	%	2.3	3.2	1.7	2.7	3.9	3.5
	小学校でのケガ発生率	%	7.2	5.8	5.7	5.8	5.0	5.8
状態・状況	行動に注意する子どもの割合【2016 東小アンケート開始】	n=75	【2016 年のみの調査結果】 ケガをしないように注意している児童 58人 77.3%					

2 0～6 歳児のケガ防止プログラム	
課題	0～6 歳児のケガが多く、特に 17～21 時に多い
目標	0～6 歳児のケガの発生件数を減らす
内容	ケガ予防の啓発等と K Y T による安全力の育成
対象	保育園児、保護者
実施関係者	保育園、警察、町交通安全協会、S C 子どもの安全対策委員会など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2012	2013	2014	2015			
活動指標	保育園での安全教室実施回数	回	9	9	9	8			
	保育園での安全教室参加者数	人	637	593	580	606			
認識・知識	K Y T 実施回数・受講者数	※2017 年から実施予定							
態度・行動	家庭でのケガ防止対策実施率【2015 アンケート結果】	n=548 %	-	-	-	よく行う 63.2 %			
						少し行う 31.6 %			
状態・状況	0～6 歳児の外傷による救急搬送件数【救急搬送データ】	年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
		件	6	9	12	14	3	8	6

3 登下校安全対策プログラム	
課題	登下校時の事故減少及び不審者等に関わる危険抑制のため、通学パトロール隊等の活動継続が必要
目標	登下校時の事故及び不審者を減少させる
内容	通学路の危険箇所マップの整備、通学パトロール隊等の活動支援などにより地域の安全力を高める
対象	小学生、中学生
実施関係者	小学校、保護者、通学パトロール隊、地域住民、S C 子どもの安全対策委員会等

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2012	2013	2014	2015			
活動指標	ケガ多発箇所マップ作成校数	校数	5 小学校	5 小学校	5 小学校	5 小学校			
認識・知識	危険箇所把握数	箇所	72	80	91	97			
	危険箇所対応中数		59	61	65	64			
	危険箇所対策済数		3	9	16	23			
態度・行動	通学パトロール隊員数	人	392	390	341	332			
状態・状況	声かけ事案発生件数【伊那警察署生活安全課】	年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
		件	2	2	1	1	1	1	9

☆2015 年の急増は、強制わいせつで逮捕された被疑者の余罪数件あり

■ 暮らしの安全対策委員会

1 命のカプセル普及プログラム	
課題	独居高齢者は暮らしに不安がある
目標	独居高齢者の不安感の軽減
内容	救急医療情報キット（命のカプセル）の普及促進
対象	独居高齢者、障がい児者など
実施関係者	民生児童委員協議会、SC暮らしの安全対策委員会、消防署、町など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2011	2012	2013	2014	2015	K S C
活動指標	命のカプセル配布数	個	448	22	16	20	22	200
認識・知識	命のカプセル認知率 【2016 アンケート開始】	n=400	【2016年のみの調査結果】 知っている 101人 25%					
態度・行動	独居高齢者の命のカプセル 装備率【2016 アンケート開始】	n=11	【2016年のみの調査結果】 4人 36.4%					
	救急搬送時における命の カプセルの活用件数	年 件	2012 4	2013 2	2014 0	2015 3		
状態・状況	独居者で総じて安心だと 感じる人の割合【各年S Cアンケート結果】	年とデータ数		2011 n=468	2013 n=35	2015 n=54		
		安心に感じる		3.4%	22.9%	31.5%		
		どちらかと言えば感じる		43.9%	45.7%	37.0%		

2 まちを明るくするプログラム

課題	不審者、声かけ事案があり、道路等の暗さへの不安感がある
目標	不審者出没件数の減少と、暗さへの不安感の軽減
内容	家庭における玄関灯・外灯の点灯推進や防犯外灯の整備
対象	通学歩行者、通勤歩行者、道路利用者
実施関係者	各家庭、企業、地元自治会、SC暮らしの安全対策委員会、町など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2012	2013	2014	2015			
活動指標	玄関灯・外灯の点灯を呼び掛けるチラシ配布数	枚	700	39	42	59			
認識・知識	防犯外灯設置の地域要望数	基	20	31	54	47			
態度・行動	防犯外灯の新設数	基	20	31	54	36			
	玄関灯の点灯割合【実績 (一部地域抜粋調査結果)】	年	2012	2013	2014	2015	2016		
		軒数	-	30軒	-	-	40軒		
	%	-	34.9%	-	-	45.5%			
状態・状況	声かけ事案発生件数 【警察統計】	件	2009 2	2010 2	2011 1	2012 1	2013 1	2014 1	2015 9

3 地震被害軽減プログラム (2015年に新たに設定したプログラム)	
課題	地震被害の軽減対策が不十分
目標	地震からの減災意識と減災対策の向上
内容	①減災・防災意識を高め、訓練参加者や防災士を増やす ②家具転倒防止対策や感震ブレイカーの普及を促進する
対象	家庭、企業、保育園、小中学校
実施関係者	消防署、消防団、民生児童委員協議会、SCくらしの安全対策委員会など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】						
活動指標	検討中	—					
認識・知識	緊急メール登録数	2016年	緊急情報メール	3,535人	登録率	13.6%	
態度・行動	震災総合訓練参加者数	年	2012	2013	2014	2015	2016
		人数	3,746	3,933	3,932	3,329	3,904
	防災士数	人数	7	12	15	26	35
	家具転倒防止対策実施率	n=399	-	-	-	-	32.0%
	感震ブレイカー設置率	n=400	-	-	-	-	6.5%
状態・状況	町の減災効果の推定値	算定方法については今後検討していく					

■ 自殺予防対策委員会

1 ゲートキーパー推進プログラム

課題	自殺について正しく理解されていない
目標	地域ぐるみで自殺を予防する
内容	ゲートキーパー養成講座を推進し、正しい知識の習得を目指す
対象	町民、団体、企業など
実施関係者	県保健福祉事務所、精神保健福祉センター、SC自殺予防対策委員会、町など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2011	2012	2013	2014	2015
活動指標	ゲートキーパー養成講座開催数	回	3	1	4	5	1
	ゲートキーパー養成講座受講者数	人	72	27	72	134	18
認識・知識 態度・行動	受講内容の理解度 【2015アンケート開始】	n =17	【2015年のみの調査結果】				
			自殺予防の必要性	100%			
			ゲートキーパーへの理解度	94.1%			
			自殺のサインへの理解度	82.4%			
			気付いた後の対応への理解度	88.2%			
状態・状況	2週間以上不眠でも相談しない理由【2010と2016のアンケートから上位回答抜粋比較】	自然に治るだろうから	2010年	53.1%	⇒	2016年	50.0%
		自分で解決できるから	2010年	34.7%	⇒	2016年	31.2%
		相談してもかわらないから	2010年	28.6%	⇒	2016年	31.2%
		何となく	2010年	22.4%	⇒	2016年	56.3%
		忙しいから	2010年	20.4%	⇒	2016年	6.3%
		相談先がわからない	2010年	14.3%	⇒	2016年	18.8%

2 ネットワーク構築・活用プログラム

課題	関係団体の繋がりががないため情報共有や有効活用がなされていない
目標	情報を有効活用できるネットワークを構築し、自殺予防に資する
内容	情報共有・有効活用できる組織を作り、自殺予防に生かす
対象	地域ボランティア組織、関係団体・機関など
実施関係者	一般町民、ボランティア、医師会、保護者会、警察、民生児童委員協議会など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2013	2014	2015	2016
活動指標	自殺予防街頭啓発活動実施回数及び活動参加者数	回 人	-	-	2回 26人	1回 13人
	自殺予防対策連絡会開催数	回	1	1	2	1
認識・知識 態度・行動	心の健康づくり講演会参加者数	人	-	-	200人	150人
状態・状況	事案発生時における連絡会の会員間での連携回数	回	-	-	-	-

3 各種情報・相談窓口充実プログラム

課題	男性は悩みを相談する人が少なく、自損行為にいたった際、死亡に繋がる
目標	①働き盛りの男性の自殺を減らす ②男性の相談件数を増やす
内容	各種情報の提供と相談窓口の充実
対象	20～60代の男性、町内企業に勤める人など
実施関係者	S C自殺予防対策委員会、医療機関、コンビニ、町など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
活動指標	相談先案内カード設置箇所数	箇所 (累計)	-	-	15	18	34	37	37
	自殺予防街頭啓発活動実施回数及び活動参加者数(※再掲)	回 人	-	-	-	-	-	2回 26人	1回 13人
認識・知識	相談先案内カード配布数	枚	-	679	663	1,340	3,636	4,682	-
	心の健康づくり講演会参加者数(※再掲)	人	-	-	-	-	-	200人	150人
態度・行動	24時間対応健康医療電話相談件数	件	-	-	-	224	307	467	-
状態・状況	20～60歳代男性の自殺者数	人	3	3	1	0	1	4	-

Supplement 1 1

(補足資料 1 1)

Participation in Domestic & Overseas

Safe Community Networks

(国内外のセーフコミュニティネットワークへの

参加)



[1] 国内のネットワークへの参加状況

箕輪町は、国内で開催される各種大会や認証式典、事前指導、現地審査などのセーフコミュニティネットワークに、積極的かつ継続的に参加するとともに、認証都市の責務として、日本におけるセーフコミュニティ活動の普及、拡大に努めてきました。現在、国内のセーフコミュニティ認証自治体は14自治体に、また、これにセーフコミュニティ認証取得を目指している自治体等を加えると、16を超える自治体がセーフコミュニティ活動を推進していることとなります。

なお、箕輪町は、2011年にSC推進自治体で設立した、「SC推進自治体ネットワーク」にも発足当初から参加しています。

■ 認証取得前

2011.12	日本セーフコミュニティ推進機構国際セーフコミュニティスクール認証センター認証記念国際シンポジウム	大阪府大阪市
---------	--	--------

■ 認証取得

2012年5月12日に、セーフコミュニティ認証を取得

【世界で274番目、日本で4番目の認証取得】



【箕輪町セーフコミュニティ認証式典の様子】

■ 認証取得後

2012.10	セーフコミュニティサミット in としま	東京都豊島区
2012.11	東京都豊島区セーフコミュニティ認証式典	東京都豊島区
2012.12	長野県小諸市セーフコミュニティ認証式典	長野県小諸市
2013.2	京都府亀岡市セーフコミュニティ再認証式典 第1回JISC定例会議	京都府亀岡市
2013.7	JISC研修会	京都府京都市

2013.10	横浜市栄区セーフコミュニティ認証式典	横浜市栄区
2013.11	大阪府松原市セーフコミュニティ認証式典	大阪府松原市
2013.12	福岡県久留米市セーフコミュニティ認証式典 ①	福岡県久留米市
2014.2	埼玉県秩父市セーフコミュニティフォーラム	埼玉県秩父市
2014.2	市民安全・安心フォーラム in かめおか 2014 第10回記念日本市民安全学会亀岡大会	京都府亀岡市
2014.7	JISC研修会	京都府京都市
2014.10	横浜市栄区セーフコミュニティフォーラム	横浜市栄区
2014.10	神奈川県厚木市のセーフコミュニティ事前指導を視察	神奈川県厚木市
2015.2	埼玉県北本市セーフコミュニティ認証式典 第3回JISC定例会議	埼玉県北本市
2015.7	神奈川県厚木市のセーフコミュニティ現地審査を視察 全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク担当者会議	神奈川県厚木市
2015.7	JISC研修会	大阪府大阪市
2015.10	横浜市栄区セーフコミュニティフォーラム	横浜市栄区
2015.11	神奈川県厚木市セーフコミュニティ再認証式典 第12回日本市民安全学会厚木大会	神奈川県厚木市
2015.11	埼玉県秩父市セーフコミュニティ認証式典 ②	埼玉県秩父市
2016.2	滋賀県甲賀市セーフコミュニティ認証式典	滋賀県甲賀市
2016.8	大阪府泉大津市のセーフコミュニティ現地審査を視察 JISC研修会	大阪府泉大津市
2016.10	埼玉県秩父市セーフコミュニティフォーラム	埼玉県秩父市
2016.10	大阪府泉大津市セーフコミュニティ認証式典	大阪府泉大津市



[①福岡県久留米市SC認証式典]



[②埼玉県秩父市SC認証式典]

[2] 国外のネットワークへの参加状況

箕輪町は、2012年に第6回アジア地域セーフコミュニティ会議を共同開催するとともに、国外で開催される国際会議等のセーフコミュニティネットワークに参加し、箕輪町の取組みを広く世界の方々に紹介し、多くの知見を学ぶことができました。

■ 認証取得前

2010.3	第18回セーフコミュニティ国際会議	大韓民国水原市
2011.9	第20回セーフコミュニティ国際会議	スウェーデン ファールン

■ 認証取得後

2012.11	第6回アジア地域セーフコミュニティ会議 (東京都豊島区と長野県小諸市との共同で開催。事例発表とトラベリングセミナーを実施)	東京都豊島区、長野県小諸市、長野県箕輪町
2014.5	第7回アジア地域セーフコミュニティ会議 ③ (首長による事例発表)	大韓民国釜山市



[③第7回アジア地域セーフコミュニティ会議]

[3] 地区SC推進協議会における事例発表状況

箕輪町の自治会が自主的・主体的に組織する「地区SC推進協議会」においても、積極的に他自治体の講演依頼を引き受けるなど、セーフコミュニティネットワークの強化に尽力してきました。

2013.6	警察庁主催「ブロック別防犯ボランティアフォーラム」での事例発表	北小河内地区	東京都千代田区
2014.2	埼玉県秩父市SCフォーラムでの事例発表	北小河内地区	埼玉県秩父市
2015.10	横浜市栄区SCフォーラムでの事例発表	北小河内地区	横浜市栄区
2016.10	埼玉県秩父市SCフォーラムでの事例発表	富田地区	埼玉県秩父市

